

ラ之ヲ統督シ擔保ノ貯ニ任スルモノトス

第十七條 署員以下ノ勤務ハ提理及支署長ニ於テ之ヲ規定スヘシト雖モ其從事スヘ

キ勤務ノ要項概テ左ノ如シ

署員ハ署内ノ庶務工事ノ施設設計器具材料ノ調辦貯存偵察測量等總テ一部ノ事業
ヲ擔當シ軍吏ハ常理經算ニ上等監護ハ庶務ニ任シ或ハ署員擔當ノ事業ヲ補製シ又
監護ハ工事ノ施設器具材料ノ出納保管及測量製圖ニ技手ハ通信器電氣燈等ノ事ニ
任ス

第十八條 砲臺監守ハ常ニ堡壘砲臺ノ内部若シハ附近ニ居住シ堡壘若シハ砲臺ノ取

締ヲ爲シ倉庫等ノ鍵鑰ヲ管守シ又砲兵方面支署長ノ命ヲ受ケ堡壘若シハ砲臺内ニ
在ル砲兵材料ヲ監守スルモノトス

第十九條 本規則ニ於テ要塞司令官ニ規定シタル條項ハ堡壘砲臺ノ設ケアル島嶼ノ
警備隊司令官ニ適用ス

●觀音崎下ノ關及對馬ヘ工兵方面支署設置

明治二十三年二月
陸軍省告示第三號

本年四月ヨリ觀音崎下ノ關及對馬ヘ工兵方面支署ヲ置ク

●警備隊條例

明治十九年十一月
勅令第七十五號

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置ク

第二條 譯備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ鎮台司令官直ニ之
ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入
營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス

其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 警備隊ノ上等兵ハ兵卒ト同シ在營一箇年ノ後歸休ヲ命スト雖モ志願ノ者ハ
尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ノ中ヨリ其任ニ堪ヘキ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但
時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二章 司令官ノ本務權限

●警備隊ヲ對
馬國ニ置ク
明治十九年十一月
勅令第七十五號
警備
隊條例第一條ニ
依リ對馬國ニ警備
隊ヲ置ク

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ掌リ管地ノ警備保護ニ任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮台司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ鎮台司令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ鎮台司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告ス可シ

第十條 出師準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承ク可シ

●警備隊區司令部條例

明治二十二年十二月 勅令第百四十二號

朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊區司令部條例

第一條 警備隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士二名

第二條 警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條 警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル豫備後備將校同相當官ノ身上異動

其他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 警備隊區司令官ハ豫備隊區内ニ現在スル隊備後備下士兵卒ヲ管轄シ歸休兵

ヲ監視ス

第六條 警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條 警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ
 第八條 警備隊區司令部位置ハ警備隊常屯ノ地トス

●大隊區司令部條例 明治二十一年五月 勅令第二十九號

朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大隊區司令部條例

第一條 各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士五名内一名ハ平吏部下士

監視區長 曹長二名乃至四名

第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 大隊區司令官ハ大隊區内ニ現在スル豫備後備ノ將校及相當官ノ身上異動其

他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

●大隊區司令部條例第六條
 中改正 明治二十一年五月
 朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治二十一年五月
 令第二十九號
 區司令部條例第六條
 知山宮津一八代
 大分ニ改ム

第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ

麻布	橫濱	宮崎	長野	佐倉
水戸	本郷	宇都宮	仙臺	福島
新發田	柏崎	青森	盛岡	秋田
山形	名古屋	津	豊橋	静岡
金澤	富山	岐阜	福井	大阪
和歌山	大津	京都	姫路	岡山
神戸	宮津	廣嶋	尾ノ道	山口
松江	丸龜	徳島	松山	高知
熊本	宮崎	八代	鹿兒島	小倉
佐賀	福岡	長崎		

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至四箇ノ監視區ト爲ス

第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐劄シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐劄地ハ師團長之ヲ定ム

第						二		
第		第				四		
岐	富	金	靜	豐	津	名古屋	山形	
阜	山	澤	岡	橋			秋田	
岐阜郡 厚見郡 加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡 愛知	富山郡 各務郡 方縣郡 羽栗郡 中島郡 武儀郡	石川郡 大野郡 益田郡	靜岡郡 駿東郡 佐野郡 城東郡 周智郡 富士郡	長上郡 豐田郡 山名郡 磐田郡 益津郡 榛原郡	愛知郡 南設樂郡 北設樂郡 額田郡 幡豆郡 東加茂郡 靜岡	三重郡 安濃郡 桑名郡 員辨郡 飯高郡 飯野郡 多氣郡 朝明郡 鈴鹿郡 度會郡 答志郡	山形郡 愛知郡 海東郡 西海郡 知多郡 碧海郡	秋田郡 東閉伊郡 南閉伊郡 中閉伊郡 宮城 登米郡 栗原郡 本吉郡

第					三						
第		七			第		六				
岡	姫	京	大	和	大	福					
山	路	都	津	歌	阪	井					
岡山郡 岡山區 兒島郡 和氣郡 眞島郡 勝南郡 勝北郡 赤坂郡 東北條郡 東南條郡	鳥取郡 智頭郡 八東郡 高草郡 氣多郡 岡山 英田郡 吉野郡 赤穂郡	兵庫郡 印南郡 飾西郡 揖保郡 揖保郡 高井郡 八上郡 岡山 赤穂郡 多可郡	廣瀨郡 紀伊郡 平群郡 高市郡 葛上郡 葛下郡 忍海郡 山邊郡	京都郡 上京區 下京區 宇治郡 久世郡 相樂郡 綴喜郡 山邊郡 奈良 添下郡	滋賀郡 三重 阿拜郡 伊賀郡 葛野郡 乙訓郡 綴喜郡 奈良 添上郡	和歌山郡 奈良 吉野郡 宇智郡 山田郡 伊賀郡 葛野郡 乙訓郡 綴喜郡 奈良 添下郡	丹波郡 淡路郡 安房郡 八上郡 高安郡 大鳥郡 泉郡 石川郡 大縣郡 日根郡 志紀郡	大阪郡 西區 東區 南區 北區 堺區 河內郡 若江郡 住吉郡	福井郡 足羽郡 南條郡 今立郡 丹生郡 敦賀郡 岐阜 海西郡 下石津郡 多藝郡	中島郡 春日井郡 東春日井郡 丹羽郡	西春日井郡 東春日井郡 丹羽郡

六		第十	
小倉	福岡	佐賀	福岡
企救郡 津島郡 上毛郡	京都郡 築城郡 田川郡	佐賀郡 養父郡 杵島郡	福岡郡 福岡區 上座郡 志摩郡 山本郡
西國東郡 大分郡 下毛郡	東國東郡 玖珠郡 宇佐郡	基肆郡 小城市 福岡郡	糟屋郡 下座郡 早良郡 生葉郡
速見郡 日田郡		宗像郡 夜須郡 竹野郡	御井郡
		東彼杵郡 壹岐郡	北松浦郡 石田郡
		長崎郡 南高來郡	西彼杵郡 北高來郡
		長崎郡 南松浦郡	長崎郡 上縣郡 下縣郡
		對馬郡	

北海道ハ管區制定ニ至ル迄第二師管第四旅管青森大隊區ニ屬ス
警備隊設置迄ハ東京府小笠原島ハ麻布大隊區ニ新潟縣雜太羽茂加茂三郡ハ柏崎大隊區ニ鳴根縣周吉穩地海士知夫四郡ハ松江大隊區ニ鹿兒嶋縣大島熊毛馭謨三郡及沖繩縣ハ鹿兒嶋大隊區ニ長崎縣松浦郡ハ長崎大隊區ニ屬ス

●陸軍管區表中改正 明治二十三年五月 勅令第八十二號

朕陸軍管區表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十一年五月勅令第三十二號陸軍管區表中左ノ通改正ス
第一師管麻布大隊區高崎大隊區ノ管府縣ヲ左ノ通改ム

大隊區	警備隊區	管	府	縣
高崎		群馬 埼玉 入間郡 高麗郡 比企郡 橫見郡 秩父郡 兒玉郡 男衾郡		
麻布		東京 麻布區 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 小石川區 神奈川 橘樹郡 都筑郡 南多摩郡 荏原郡 南豐島郡 赤坂區 四谷區 伊豆七島 北多摩郡		
第四師管大隊區ノ區畫中「宮津」ヲ「福知山」ニ改ム				
第五師管山口大隊區九龍大隊區松山大隊區ノ管府縣ヲ左ノ通改ム				
大隊區	警備隊區	管	府	縣
山口		山口 大島郡 玖珂郡 熊毛郡 都濃郡 佐波郡 吉敷郡		
九龍		香川		
松山		愛媛		

助チ來ムルコトヲ得
 第五條 憲兵ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セスト雖モ衛戍司令官ハ憲兵ヲシテ地方ノ事情ニ關スル緊要ノ事件ヲ報知セシメ又火急ノ事變ニ際シテハ命令ヲ下シ服事セシムルコトヲ得

衛戍病院職官表

階級	上	長	官	士	官	准	士	官	下	士	計
大 病 院	長	一(二)等軍醫正	一	醫 官 一等軍醫 副醫官 二(三)等軍醫 三(三)等藥劑官 二(三)等軍吏	一	三	三	一	一等看護長 二(三)等看護長 一(二)(三)等書記	四	二十七
小 病 院	長	二等軍醫正	一	醫 官 一等軍醫 副醫官 二(三)等軍醫 三(三)等藥劑官	一	一	一	一	一等看護長 二(三)等看護長 一(二)(三)等書記	三	九
備	一	大病院卜アルハ師團司令部所在地小病院卜アルハ歩兵一聯隊以上ノ所在地ニアル病院ヲ云フ									

考
 二 東京ニ在テハ醫官一名副醫官二名州官一等藥劑官一名二三等藥劑官一名一等看護長四名二三等看護長十三名及ヒ一等軍吏一名二三等書記二名ヲ增加ス
 三 小病院ノ院長ハ所在地歩兵聯隊醫官之ヲ兼職ス

衛戍武庫職官表

位	階	級	士	官	准	士	官	下	士	計
東 京	大 尉	中 尉	二 三 等 軍 醫	曹 長	一 二 等 軍 曹	一 二 三 等 書 記	一 二 三 等 看 護 長	看 守 卒		計
東 京	一	一	一	六	三	三	一	一	二十四	三十九
丸 豐 高	總 務 課	福 大 新 發 岡 津 田	主 管 中(少)尉	一	主 管 上 等 監 護	一	一 二 等 軍 曹 銃 工(下)長	一	三	
松 金 佐	山 澤 倉	小 姬 青 倉 路 森	主 管 中(少)尉	一	監 護 一 二 等 軍 曹 銃 工(下)長	一	一 二 等 軍 曹 銃 工(下)長	一	四	
廣 名 東	島 屋 仙 臺	熊 大 阪 本	主 管 大 尉	一	上 等 監 護	一	監 護 火 工(下)長 一 二 等 軍 曹 鞍 工(下)長 銃 工(下)長	一	七	

第四類 官制

三八二

小倉 福岡
 備 本表定員ノ外東京ニ在テハ上等監護一名火工(下)長一名銃工(下)長一名ヲ増加スルコトヲ得

衛戍監獄職官表

位 置	大 尉	中 尉	少 尉	一等軍醫	曹長	二(二)等軍曹	一(二)(三)等書記	一(二)(三)等看護長	看守卒	計
東 京	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大 阪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大 阪 副 長	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
仙臺 名古屋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣島 熊本	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
青森 金澤	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
松山 小倉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
備 考	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	青森、金澤、松山、小倉衛戍監獄ノ衛生事務ハ所在地病院附二三等軍醫ヲ以テ兼掌セシム									
二	看守長看守卒ノ定員ハ最上限ヲ示スモノナリ故ニ囚人減少ノ時ニ在テハ減少スルコトアルヘシ									

●憲兵條例

明治二十二年三月 勅令第四十三號

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

憲兵條例

總則

第一條 憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル其戰時若シハ事變ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸海軍大臣ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務大臣ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ隸ス

第三條 憲兵ハ行政警察司法警察ニ係ル事件ニ付警視總監府縣知事東京府ヲ除ク及檢察官ノ指示ヲ受ク

第四條 憲兵ハ其職務ニ於テ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用フルコトヲ得ス

第一 暴行ヲ受クルトキ

第二 其占守スル所ノ土地又ハ委託セラレタル場所若クハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用フルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テヒサレハ其抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條 必要ノ場合ニ際シ内務大臣陸軍大臣合議シテ憲兵ヲ一時其管轄地外ニ分派スルコトヲ得

配置編制

第七條 憲兵ハ各府縣ニ配置ス其管轄地ハ府縣ノ管轄區域ニ依ル

第八條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各府縣ニ憲兵隊ヲ置キ區分シテ各管區ニ憲兵分隊

第四類 官制

三八三

ヲ置キ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ置ク

第九條 各府縣ノ憲兵隊ハ其管轄地ヲ分畫シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス

第十條 憲兵管區ハ内務大臣憲兵司令官ニ諮問シテ之ヲ定メ巡察區ハ警視總監府縣知事東京府ヲ除ク憲兵隊長ニ協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十一條 憲兵司令部ノ職員左ノ如ク

憲兵司令官 憲兵大佐 一名

副官 憲兵大中尉 二名

軍吏 一、二等軍吏 一名

書記 憲兵下士 五名

軍吏部下士 一、二、三等書記二名

第十二條 憲兵隊ノ編制左ノ如ク

本部

隊長 憲兵中少佐 一名

副官 憲兵大中尉 一名

軍吏 一、二等軍吏 一名

下副官 憲兵曹長 一名

書記 憲兵下士 三名

軍吏部下士 一、二、三等書記二名

分隊

分隊長 憲兵大中尉 一名

書記 憲兵下士 一名

伍長 憲兵下士 若干名

憲兵上等兵 若干名

第十三條 憲兵上等兵五名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊ト爲ス

第十四條 憲兵隊ハ地名ヲ冠シテ某憲兵隊ト稱ス

時宜ニ依リ一伍若クハ數伍ヲ乘馬兵トナス

第十五條 憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條 憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事アルヲ知リタルトキハ速ニ内務大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ

第十七條 憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育職務履行ノ程度ヲ檢閲スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其景況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條 憲兵隊長ハ部下ヲ董督シ其勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條 憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監府縣知事東京府ヲ除ク及其他所在ノ檢事長上席檢事及憲兵司令官ニ申報スヘシ

第二十條 憲兵分隊長ハ管區ノ長トナリ管内ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ管區ノ事務ヲ處理ス又管内ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互諜報スヘシ

第二十一條 憲兵伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且區内ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ

第二十二條 憲兵上等兵ハ常ニ巡察區ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢察官ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラス

第二十三條 憲兵ノ勤務報告等ニ係ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム
士官以下補充

第二十四條 憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ據ルノ外各兵科士官下士ノ内ヨリ選任ス但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其職務ニ服シタル者ヨリ選任

ナルコトヲ得

第二十五條 憲兵上等兵ハ現役豫備役及軍籍ニ在ル兵卒中志願ノニシテ檢査合格ノ者ヨリ選用ス

第二十六條 憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

服役

第二十七條 憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服スルモノトス

第二十八條 憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルコトヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期トシ年齡定限ニ至ルマテハ數次請願スルコトヲ得

第二十九條 再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テスルモノトス其分隊ニ在テハ分隊長ト誓約シ憲兵隊本部ニ在テハ憲兵隊長ト誓約シ憲兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト誓約ス但分隊長憲兵隊長ニ在テハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ

第三十條 再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ誓約ハ新ニ屬スル所ノ部隊長ニ移ルモノトス

第三十一條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延スコトアルヘシ

第三十二條 服役終ルノ後ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ

後備役ニ編入シ通シテ十二箇年服役セシム其服役十二箇年ヲ過クル者ハ之ヲ免除ス

第三十三條 憲兵下士上等兵服役中ハ自己ノ請願ヲ以テ免除セス但左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ免除ス

第一 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第二 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス

第三 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第三十四條 前條第一項第二項ニ當ル者ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ憲兵科服役年月ヲ通算シ七箇年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二箇年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム其服役十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十五條 憲兵下士上等兵其職務ヲ辱シムルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受クルトキハ懲罰令第十五條ノ例ニ拘ラス官職ヲ免スルコトヲ得

第三十六條 前條ニ依リ官職ヲ免シタル者及刑法又ハ懲罰令第十五條ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ免シタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナシ憲兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム其十二箇年ヲ過

キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條 第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ス

第三十八條 憲兵ノ將校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトモハ原兵科ニ復スルモノトス其原兵科ナキモノハ歩兵科トス

附則

第三十九條 此條例ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

各府縣ニ配置スル憲兵隊ハ東京大坂二府ヲ除ク外他ノ府縣ハ漸次之ヲ置キ其都

度陸軍大臣之ヲ告示スベシ

第四十條 當分ノ内憲兵少尉ヲ以テ分隊長ノ職ニ充ルコトヲ得

第四十一條 從前ノ憲兵卒ニシテ能ク其職務ニ適スル者ハ検査ノ例ニ依ラス憲兵上等兵ニ採用スルコトヲ得

輜重廠條例別冊ノ通被定
(別冊)

●輜重廠條例
明治二十一年三月
陸軍省達第三十六號

輜重廠條例

第一條 輜重廠ハ輜重兵大隊中ニ置キ師團戰用器材(兵器彈藥ヲ除ク)ヲ貯藏シ戰用ニ堪ユヘク保存シ兼テ器材ノ修理ヲ掌ル所トス

第二條 輜重廠ニ貯藏スル戰用器材左ノ如シ
但衛生材料及電信器材ハ之ヲ除ク

一 師團司令部戰用器材

二 步騎兵隊(後備軍隊共)戰用器材

三 砲兵隊(彈藥縱列共)戰用器材

四 工兵隊(後備軍隊、大小架橋縱列、電信隊共)戰用器材

五 出師準備ヲ爲セシ輜重兵大隊(糧食縱列、馬廠)兵站糧食縱列、輜重監視隊、衛生隊、野戰病院、豫備衛生材料廠、戰用器材

第三條 營所分營及ヒ屯セル隊(該隊ニ於テ更ニ編制スル部隊後備軍隊等共)ノ戰用器材ハ該隊ニ置ク

但旅團本部ト共ニ屯在スル隊ニ在テハ其本部ノモノモ亦該隊ニ置ク

第四條 營所分營及ヒ分屯セル隊ノ戰用器材ハ該隊ニ於テ適宜ニ修理スルモノトス

第五條 輜重兵大隊長ハ輜重廠ニ現在スル器材ハ近衛都督鎮臺司令官ノ命令若シハ

許可ヲ得ルニアラサレハ他ニ出スヲ得ス

第六條 部隊ニ於テ演習ノ爲メ廠内ノ器材ヲ使用シ破損等ヲ生シタルトキ其工術上ニ關スル器材ハ部隊ニ於テ修理返還シ其他ハ輜重廠ニ於テ修理ヲ爲ス其費額ハ部隊ヨリ支出スルモノトス

第七條 輜重廠ニ現在スル器材ハ輜重兵大隊長總テ其保存ノ責任ヲ有スルト雖モ工術上ニ關スルモノ、戰用ニ堪ユルト否ハ之ヲ使用スル部隊長其責ニ任スルヲ以テ其部隊長ハ臨時輜重廠ニ就キ現在品ヲ検査スルモノトス

第八條 器材中戰用ニ堪ヘ難シト認ムルモノアルトキハ輜重兵大隊長ハ近衛都督鎮臺司令官へ上申スヘシ然レトモ工術上ニ關スル器材ハ之ヲ使用スル部隊長ノ商議ヲ受ケ右ノ手續ヲ爲スモノトス

第九條 前條ノ場合ニ於テハ近衛都督鎮臺司令官ハ委員ヲ編成シ廢否ヲ審査セシメ其判定ニ依リ代品ヲ要スレハ陸軍大臣ニ上申スルモノトス

第十條 輜重兵大隊長ハ代品受領ノ上其廢品ハ當該監督部長ノ承諾ヲ受ケ近衛都督鎮臺司令官ノ許可ヲ得テ賣却スルモノトス

第十一條 輜重廠ノ衛兵ハ衛戍衛兵ヨリ之ヲ派遣スルヲ例トス

第十二條 器材手入等ノ爲メニ要スル雜役若シ輜重廠ノ人員コテ不足スルトキハ輜

- 重兵大隊長ハ近衛都督鎮臺司令官ニ申請シ他隊ノ兵卒ヲ使役スルコトヲ得
- 第十三條 輜重廠ノ經濟ハ總テ本隊ト之ヲ異ニシ其會計經理ハ專ラ官廩ノ經理法ニ據リ施行シ當該監督部長ノ監視ニ屬スルモノトス
- 第十四條 輜重廠ハ戰時ニ在テハ留守スヘキモノトス而シテ其廠長ハ時宜ニ依リ補充中隊長ヲシテ之ヲ兼テシムルコトアリ
- 第十五條 輜重廠長ハ輜重兵大隊長ノ命ヲ受ケ廠中一切ノ事務ヲ總理シ專ラ其責ニ任ス
- 第十六條 輜重廠長ハ部下ニ休暇ヲ與ヘ或ハ懲罰ヲ科スル事ニ就テハ中隊長ト同一ノ權ヲ有ス

●近衛各師團軍醫部服務規則

明治二十一年十一月
陸軍省達第二百二十二號

近衛各師團軍醫部服務規則別冊ノ通被定

(別冊)

近衛各師團軍醫部服務規則

- 第一條 近衛各師團ノ軍醫部ハ其管内近衛ハ部下師團ハ管内以下同シ衛生事務ヲ統轄スル所トス
- 第二條 軍醫長ハ都督師團長ニ隸シ部下ノ軍紀風紀ヲ維持シ管内ノ衛生事務ヲ總理

シ衛生部員ヲ監督シ及下士以下ノ補充教育ヲ管掌ス

- 衛生事務及下士以下補充教育ノ事ニ就テハ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ承ク
- 第三條 軍醫長ハ常ニ出師ニ係ル衛生部人員ヲ調査シ且戰時用衛生材料ヲ準備ス
- 第四條 軍醫長ハ衛生部員ノ勤務行狀其他身上ノ事ニ就テハ都督師團長ニ具申スト雖トモ尙ホ醫務局長ニ申告スルモノトス
- 第五條 軍醫長ハ看護手ニ看護長(調劑手)適任證書ヲ附與スヘキ者アルトキハ都督師團長ノ認可ヲ得テ證書ニ署名スヘシ
- 第六條 軍醫長ハ管内衛生部下士ニ一等給ヲ給スヘキモノアルトキハ之ヲ命スルコトヲ得其手續ハ別ニ定ム
- 第七條 軍醫長ハ醫官藥劑官ノ派遣若クハ出張等ヲ要スルトキハ之ヲ選定シテ都督師團長ニ具申ス
- 第八條 軍醫長ハ傷痍疾病ニ依リ現役及服役免除並恩給ニ係ル診斷書ヲ審査シテ署名スヘシ
- 第九條 軍醫長ハ管掌ノ事務ニシテ各隊及校團等ニ涉ルモノハ直接ニ照會スルコトヲ得
- 第十條 軍醫長ハ毎月師團司令部所在地近衛軍醫長ハ其部下ノ醫官藥劑官ヲ會シ自カラ議長ト

ナリ衛生一般ノ利害得失ヲ審議スルコトヲ得

第十一條 軍醫長ハ臨時必要ト認ムルトキハ師團長ノ許可ヲ得テ師團司令部所在地外ノ醫官藥劑官ヲ招集スルコトヲ得但官廳附ノモノハ其校團等ノ長官ニ照會スルモノトス

第十二條 軍醫長ハ師團司令部所在地ノ病院ニ在テ事務繁劇ノトキハ其地部隊ノ二三等軍醫ニ病院勤務ヲ命スルコトヲ得

又部隊ニ於テ醫官一時缺員スルカ或ハ事務繁劇ノ時ニ在テハ他ノ部隊ノ醫官ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得但所在地外ニ涉ルトキハ師團長ニ稟申スヘシ又東京ニ在テハ近衛及第一師團ノ軍醫長協議ヲ遂ケ互ニ補助スルコトヲ得

第十三條 軍醫長ハ戰時用衛生材料中品種ニ依リ其保存ヲ病院長ニ掌ラシムルコトヲ得

第十四條 軍醫長ハ都督師團長ノ命ヲ承ケ毎年一回衛生部檢閲ノ爲メニ藥劑官ヲ隨ヘ管内各部隊ヲ巡閱シ事務ノ整否教育ノ精粗條例規則實踐ノ如何ヲ查察シテ其狀況ヲ悉シ都督師團長及醫務局長ニ報告スヘシ

第十五條 軍醫長ハ部隊或ハ其所在地方ニ傳染病流行病アルトキハ速ニ豫防ノ方法ヲ計畫シテ都督師團長ニ具申スヘシ

第十六條 軍醫長ノ醫務局長ニ報告スヘキ定例ノ衛生報告ハ月報年報ノ二種トス

第十七條 軍醫長ハ定例報告ノ外衛生上臨時ノ事項並管内地方ノ衛生上ノ事ヲ知悉シテ醫務局長ニ報告スヘシ

第十八條 軍醫長不在ノトキハ師團司令部所在地ノ衛戍病院長之カ代理ヲナスモノトス

第十九條 部員ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ各其事ニ服行ス又部員ノ内一名ハ衛生材料廠ヲ管理ス

第二十條 書記ハ上官ノ命ヲ奉シ文書ノ送達諸記録ノ記注等ニ従事ス

第二十一條 軍醫部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

但近衛ニ在テハ第三項第六項第十五項及第二十三項ハ別ニ調査ヲ要セス

- 一 具申照會等文書ニ關スル事項
- 二 衛生部ノ人事ニ關スル事項並名簿ノ編纂
- 三 管内内外科醫師並藥劑師ノ人名調査
- 四 衛生部下士以下ノ教育ニ關スル事
- 五 衛生部下士ノ考科表ニ關スル事
- 六 管内陸軍病院及病室ニ關スル事

- 七 出師準備ノ衛生部ニ關スル事
- 八 衛生材料廠ノ貯藏品ニ關スル事
- 九 土地建物ニ關スル衛生ノ事項
- 十 糧倉被服ノ衛生ニ關スル事
- 十一 管内ノ地質氣象ニ關スル衛生ノ事項
- 十二 轉地療養ニ關スル事
- 十三 傳染病流行病ノ豫防及管内風土病ニ關スル事
- 十四 診斷書及體格検査ニ關スル事
- 十五 管内恤兵諸會社ニ關スル事
- 十六 衛生部士官候補生及衛生部見習士官ニ關スル事
- 十七 一年志願兵ノ衛生部勤務ニ關スル事
- 十八 衛生部下士以下ノ補充及再服役者ニ關スル事
- 十九 衛生部復習ニ關スル事
- 二十 衛生報告ニ關スル事
- 二十一 藥物及治療消耗品並治療器械調劑器械ノ調査ニ關スル事
- 二十二 衛生上ノ諸検査並紀事

- 二十三 管内食用品及有毒品ノ紀事
- 第二十二條 戰時用衛生材料ハ衛生材料廠ニ貯藏スト雖トモ師團司令部所在地外ノ歩兵隊ニ要スル戰時用衛生材料ハ其地衛戍病院ノ倉庫ニ分納セシムルコトアリ

●陸軍病院條例

明治二十一年十一月
陸軍省達第二百二十三号

明治八年十月達第九十七號陸軍病院條例別冊ノ通改正ス
但明治十九年三月省令乙第十六號陸軍軍醫官職務章程廢止ス

(別冊)

陸軍病院條例

第一章

- 第一條 陸軍病院トハ衛戍病院及衛戍地外ノ病院ヲ總稱シ其他小部隊ノ駐屯地ニ在ル病室ヲ包含ス
- 第二條 凡ソ平時陸軍病院ニ於テ治療スヘキ者左ノ如シ
 - 一 營内居住ノ隊附下士兵卒職工
 - 二 豫備後備ノ軍籍ニ在ル下士兵卒職工ニシテ召集中ノ者
 - 三 校團學舍諸生徒

●陸軍病院條例
 例中加除 明治三十三年三月
 陸軍省第三十二號
 明治二十一年十一月十一日
 陸軍省第二十二號
 陸軍省第二十三號
 陸軍省第二十四號
 陸軍省第二十五號
 陸軍省第二十六號
 陸軍省第二十七號
 陸軍省第二十八號
 陸軍省第二十九號
 陸軍省第三十號
 陸軍省第三十一號
 陸軍省第三十二號
 陸軍省第三十三號
 陸軍省第三十四號
 陸軍省第三十五號
 陸軍省第三十六號
 陸軍省第三十七號
 陸軍省第三十八號
 陸軍省第三十九號
 陸軍省第四十號

- 四 將校並相當官其他營外居住ノ現役下士以下及軍屬ニシテ特ニ治療ヲ請フ者
- 第三條 第二條第一項第二項及第三項^{學資金ヲ給與シタル者ニ在テハ}入院料ハ病院ノ費用ニシテ食料ノミ所屬部隊ヨリ入戻スヘシ
- 第四條 第二條第三項ノ內學資金ヲ給與シタル諸生徒及第四項ノ內營外居住ノ下士兵卒職工ニ在テハ入院料ハ病院ノ費用トナシ食料ノミ本人ヨリ上納セシムヘシ
- 第五條 第二條第四項ノ內將校並相當官及軍屬ニ在テハ食料入院料共本人ヨリ上納セシムヘシ
- 第六條 食料入院料共病院ノ費用ニ立ツヘキ者左ノ如シ
 - 其一 營外居住ノ軍人軍屬ニシテ公務ノ爲メニ傷痍疾病ニ罹リタル者
 - 其二 營內居住ノ下士兵卒職工及諸生徒ヨシテ休暇ヲ命セラレ旅行中病ニ罹リタル者
 - 其三 豫備役後備軍艦員^{將校並相當官ヲ除ク}及兵員ニシテ召集ニ應シ往復途上病ニ罹リタル者又ハ復習終ハルモ治療中ニシテ歸郷シ得サル者若クハ其歸途病ニ罹リタル者
 - 其四 營內居住ノ下士兵卒職工ニシテ傷痍疾病ニ罹リ現役若クハ服役免除ヲ命セラレ歸途若クハ發足前本病増加シ又ハ他ノ病ヲ發シタル者

- 其五 營內居住ノ下士兵卒職工ニシテ懲罰中除隊ヲ命セラレ其滿罰ニ際シ病ノ爲メニ歸郷シ得サル者
 - 其六 徵兵入營ヲ命セラレ郷里出發後途上發病シタル者
 - 第七條 入院患者ノ食料ハ給與概則第三章第二條ニ據ルヘシ但食料ニ殘額ヲ生スルモ之ヲ返還スルコトナシ
 - 第八條 調藥舖アラサル地方又ハ調藥舖アルモ止ムヲ得サル場合ニ在テハ陸軍軍人軍屬ニ限リ醫官ノ處方箋ヲ以テ投藥ヲ求ムルコトアルトキハ相當ノ藥價ヲ以テ上納セシムヘシ
- 第二章 衛戍病院
- 第九條 衛戍病院トハ衛戍地ニ在ル病院ニシテ某地^名衛戍病院ト稱ス
 - 第十條 衛戍病院ニハ教育所ヲ置キ看護學修業兵ヲ教育ス其規則ハ別コ之ヲ定ム
 - 第十一條 各隊及官廨附ノ一二三等軍醫ハ所屬部隊ノ勤務ト所在地病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務ニ於テハ病院專屬ノ醫官ト異ナルコトナシ
- 師團司令部所在地ノ步兵聯隊及憲兵本部附軍醫正ハ所屬部隊ノ勤務ト病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務中ハ院長ノ命ニ依リ若干ノ病室ヲ分擔シ其事務ヲ整理シ兼テ一部ノ病室ヲ擔任ス而シテ管掌ノ事ニ就テハ院長ニ對シ其責ニ任ス

第十二條 衛戍病院ニハ職官表ニ掲クル外看病人磨工厨夫ヲ雇役ス

第十三條 院長ハ衛戍司令官タル團隊長ニ隸シテ院内百般ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ主宰シ軍紀風紀ヲ維持シ部下官僚ヲ指揮シテ各其職務ヲ分擔セシメ又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

第十四條 院長ハ會計經理上ノ事ヲ周密ニ勘査シ勉メテ諸事ヲ節略シ冗費ヲ省クヘシ而シテ毎月會計經理ノ書類ヲ實査スルモノトス

第十五條 院長ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區別ヲ承ク

第十六條 院長ハ事務ノ得失並ニ購買品ノ精粗適否ニ就テハ官僚ヲ會シ自カラ議長トナリ之ヲ議セシムルモノトス

第十七條 院長ハ治療其他事務ノ整否ヲ監察シ若シ不整頓ノ事ヲ認ムルトキハ主任者ヲ督責スヘシ

第十八條 院長ハ各隊及官廨附醫官ノ病院勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長近衛各隊附醫官ノ進達スヘシ

第十九條 院長ハ院内患者ノ景況ヲ時々所管軍醫長ニ開陳シ又治療ノ方法ニ就キ軍醫長近衛ノ患者ハニ京議スルコトヲ得

第二十條 院長不在ノトキハ病院所在地ノ高級醫官之ヲ代理ヲナスヘキモノトス

第二十一條 一等軍醫ハ院長ノ指揮ヲ承ケ患者ノ治療院中ノ事務ヲ擔任ス

一等軍醫掌務ノ概目左ノ如シ

- 其一 病室ニ於テ掌ル事項
 - 一 患者ノ治療
 - 二 處方箋ノ監視
 - 三 病床日誌ノ調製
 - 四 月報及年報ニ係ル編纂材料ノ調査
 - 五 病室内外洒掃ノ注意
 - 六 患者ノ食物、入浴、散步等ノ示定
 - 七 擔當ノ病室附看護長ノ訓導看病人ノ教育及其勤務行狀ノ監視
- 其二 事務室ニ於テ掌ル事項
 - 一 具申照會等文書ノ起草淨書
 - 二 日記ノ記注及文書ノ受領送達
 - 三 患者入退院ノ取扱
 - 四 外來患者ノ診斷

- 五 診斷書ノ調製
- 六 衛生報告ノ調製
- 七 病床日誌及處方箋ノ保存
- 八 轉地療養ニ關スル事
- 九 看護學修業兵ノ教育ニ關スル事
- 十 院中人事ニ關スル事
- 十一 書籍ノ出納
- 十二 臨時副病院ノ開設ニ關スル事
- 十三 勤惰錄及門鑑ノ監守
- 第二十二條 一等軍醫ハ治療ヲ擔任スト雖トモ大手術ヲ行フヘキ患者アルトキハ他ノ一等軍醫ニ商議シタル後院長ニ稟議ノ上之ヲ行フヘキモノトス但急ヲ要スル場合ニ在テハ此限コアラズ
- 第二十三條 一等軍醫ハ二三等軍醫ト混同東京衛戍病院ニシテ輪次二十四時間ノ當直在テハ各別ニシテ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ而シテ當直ノ醫官ハ午後二回各病室ヲ回診シ且臨時ノ事ヲ處理スルモノトス但當直人員ハ院長適宜之ヲ定ムヘシ
- 第二十四條 二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ補助シ分擔ノ事務ニ服ス而シテ一等軍醫不在

●陸軍病院條例
 例中加除 明治三十三年七月
 陸軍省達第百三十三號
 明治二十一年陸軍省達第百三十三號
 軍病院條例第二十五條
 第五條第四項第三別
 註第三十一條第三
 三十二條第三十
 三條註及第三十
 六條第二項一次兵
 射的學校ノ次部
 二一要塞砲兵幹部
 練習所ノ九字第
 三十二條「某校」ノ
 下ニ「所」ノ一字
 ヲ追加シ第十一條
 第二項「及憲兵本
 部」ノ五字ヲ削除ス

ノトキハ其掌務ヲ代理ス
 二三等軍醫ハ看護長以下ヲ監視シ病者ヲシテ病室ノ規則ヲ遵守セムヘシ
 病院專屬ノ二三等軍醫ハ毎朝一等軍醫回診前看護長ヲ隨ヘ擔當ノ室ヲ回診シ前日
 來ノ症狀ヲ病床日誌ニ記注シ置クモノトス
 師團司令部所在地外ニ在ル病院專屬ノ二三等軍醫ハ軍吏部書記ノ勤務ヲ監視シ且
 會計ニ關スル事項ヲ取扱フモノトス
 第二十五條 藥劑官ハ院長ノ指揮ヲ承ケ調劑及藥物器械等ニ係ル事務ヲ整理シ兼テ
 調劑手ノ訓導ヲ掌ル
 藥劑官ハ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ但一名ナルトキハ調劑手ト輪次當直ヲ
 ナスヘキモノトス
 藥物及治療消耗品其他治療器械調劑器械等缺乏又ハ破損スルトキハ其買辦及修理
 スヘキ品目數額ヲ傳票ニ記載シ調劑ノ上院長ノ檢印ヲ請ケ軍吏部師團司令部所在地外ノ
 士以下之ニ移スヘシ而シテ軍吏ヨリ其物品ヲ受領シタルトキハ審査ノ上受領證ヲ交
 付スヘシ
 藥劑官掌務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ兼テ其所在地ニ
 於ケル各隊ノ調劑ヲ掌ル

- 一 藥物及治療消耗品ノ貯蓄出納及治療器械調劑器械ノ保存修理
 - 二 調劑製藥
 - 三 院內東京衛戍病院ニ在テ、及所在地各部隊、熊本衛戍病院ニ在テハ沖繩分遣步兵隊長崎分遣砲兵隊、病室ヲ包含シ東京衛戍病院ニ在テハ砲兵射的學校病室ヲ包含ス藥物及治療消耗品治療器械調劑器械ノ配與並器械ノ修理交換
 - 四 藥物並治療消耗品治療器械調劑器械等ノ計算並報告
 - 五 出師準備ノ物品ヲ交新スル事項
 - 六 磨工ノ研磨修理ニ係ル事項
 - 七 見習藥劑官及調劑手ノ訓導並勤務行狀ノ監視
- 第二十六條 軍吏ノ服務ハ別ニ定ムル所ニ據ルト雖トモ病院ニ於ケル掌務ノ概目左ノ如シ
- 一 衛生費ニ係ル計算及統計報告
 - 二 固定金ノ出納支出金ノ請求收入金ノ納附
 - 三 軍人軍屬ノ入院料及拂下藥價ノ領收
 - 四 藥物並治療消耗品、治療器械、調劑器械ノ買辨修理
 - 五 消耗品其他備附器具ノ買辨修理
 - 六 糧食給與並炊爨ニ關スル事

- 七 被服給與及買辨修理
 - 八 厨夫洗濯夫及縫裁職工師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ洗濯夫及縫裁職工ヲ除クノ使役ニ關スル事
 - 九 衛生材料廠ノ患者用被服寢具等ノ保存並其被服寢具及消耗品等ヲ平時ニ使用スル事項
 - 十 病院附下士以下給與ニ關スル事項
- 第二十七條 下士以下ハ上官ノ命ヲ奉シ左ニ掲グル所ノ各項ニ就キ各其事ニ服ス
- 其一 看護長ノ職務ヲ別テ書記及病室附教育所附トス而シテ其職務ハ左ノ如シ
 - 一 書記看護長ハ文書ノ受領送達諸記録ノ記注等ニ從事ス
 - 二 病室附一等看護長ハ若干ノ病室ヲ擔當シ所屬二三等看護長ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ看護ノ親疎病室ノ整頓ニ注意シ且看護病人ノ教育ヲ掌リ並ニ看護病人服裝ノ取締ヲナスヘシ又二三等看護長ハ所屬看護病人ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ又患者ノ看護、諸物品ノ出納並保存、病室ノ清潔、看護病人ノ教育等ニ從事ス
 - 三 教育所附看護長ハ教場ヲ整頓シ備附器具ノ保存諸物品ノ出納及看護學修業兵ノ取締ニ從事ス

神奈川及長崎分遣砲兵隊附衛生部士官以下ノ人員ハ二三等軍醫一名一二三等看護長一名トス沖繩分遣歩兵隊附ニ在テハ一等軍醫一名トス

第三十六條 高級醫官ハ衛戍司令官タル隊長ニ隸シテ病室ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ擔任シ軍紀風紀ヲ維持シ僚屬ヲ指揮シテ各其職務ヲ分掌セシム又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

砲兵射的學校沖繩分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊病室ノ會計經理ハ其長之ヲ管理ス

第三十七條 高級醫官ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第三十八條 高級醫官ハ衛戍地外ノ病室ヲ除ク醫官ノ病室勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長ニ進達スヘシ

第三十九條 病室ニ於テ行ヒ難キ治療ヲ要スル患者アルトキハ最近ノ陸軍病院ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

第四十條 當直ハ患者ノ景況ニ依リ所屬醫官便宜之ヲ爲スヘシ

第四十一條 病室事務ノ概目左ノ如シ

- 一 日記ノ記注及文書ノ收領送達
- 二 患者入退室ノ取扱

三 外來患者ノ診斷

四 診斷書ノ調製

五 衛生報告ノ調製

六 病床日誌及處方箋ノ調製並保存

七 書籍ノ出納勤惰録ノ監守

八 轉地療養及臨時副病室ノ開設ニ關スル事項

九 病室及所在地部隊ノ調劑

十 藥物及治療消耗品、治療器械、調製器械ニ關スル事項

十一 下士以下ノ訓導教育ニ關スル事項

十二 以上概目ノ外第十九條及第二十四條乃至第二十七條ニ準據スルコトヲ得

●陸軍隊附醫官服務規則並診斷所規程

陸軍隊附醫官服務規則並診斷所規程別冊ノ通定ム

(別冊)

陸軍隊附醫官服務規則並診斷所規程

明治二十一年十一月
陸軍省達第二百二十四號

●陸軍隊附醫官服務規則並
 診斷所規程中
 改正加除 明治
 二年七月
 陸軍省達第百二
 十四號
 明治二十一年十一
 月陸軍隊附醫官
 服務規則第一條第
 四項ノ二ニ兵隊及
 二ノ四ヲ削除シ第
 十條第十六項ノ海
 保在期ノ文中一其
 アルヲ改メ其ニハ
 月ニ改メ同診斷
 所規程第二條一
 砲兵射的學校一
 次キニ要塞砲兵
 幹部練習所ノ九
 字其校ノ下ニ一
 所ノ一字ヲ追加
 ス

第一章 總則

- 第一條 步騎砲工輕重兵隊附醫官ノ服務ハ此規則ニ據ル
- 憲兵隊及官廳附醫官ニ在テハ本則ニ準據スヘシ
- 第二條 隊附醫官ハ所在地ノ病院或ハ病室勤務ニ服スルモノトス但醫官一名ノ部隊ト師團司令部所在地ノ部隊附二三等軍醫ハ所管軍醫長ノ命令アルトキニ限ル
- 第三條 隊附醫官ハ本隊ノ事務或ハ事故ノ爲メニ病院病室ニ欲勤スルトキハ必ス其理由ヲ病院長又ハ病室ノ高級醫官ニ届出ヘシ
- 第二章 二等軍醫正ノ職務
- 第四條 二等軍醫正ハ聯隊長ニ隸シ一般ノ定期ヲ遵奉シ聯隊ノ衛生事務ヲ掌リ大隊附醫官以下ノ勤務ヲ監視シ且聯隊中一大隊ノ衛生事務ヲ兼掌ス
- 第五條 二等軍醫正ハ衛生事務及ヒ教育上ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス
- 第六條 二等軍醫正ハ尙左ニ掲クル事項ヲ整理ス
 - 一 兵營ニ於ケル衛生ノ事項
 - 二 各大隊ノ衛生事務ヲ畫一ナラシムル事
 - 三 糧食、被服、給水及酒保ニ於ケル衛生ニ關スル事項

四 衛生報告

- 五 藥物及治療器械等ノ管理
- 六 傳染病流行病等ノ豫防
- 七 見習醫官長ノ訓導看護手ノ教育ニ關スル事
- 第三章 一等軍醫ノ職務
- 第七條 一等軍醫ハ該隊長ニ隸シ該隊ノ衛生事務ヲ掌理シ二三等軍醫以下ヲ指揮シ各其職務ニ服行セシメ其勤務ヲ監視ス
- 第八條 一等軍醫ハ衛生事務及ヒ見習醫官、看護長ノ訓導看護手ノ教育ニ就テハ所管軍醫長步兵大隊ノ一等軍醫ハ、指揮監督ヲ承クルモノトス
- 第九條 一等軍醫ハ左ニ掲クル事項ヲ整理ス
 - 一 但二三等軍醫不在ノトキハ第四章ノ事務ヲ兼掌スルモノトス
 - 二 每朝各中隊ヨリ週番軍曹不在ノ時ハ週番上等兵以下之ニ倣フノ引率シ來ル患者ヲ診斷シ其經重ニ從テ之ヲ處置スヘシ
 - 三 但事務繁劇ノトキハ二三等軍醫又ハ見習醫官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
 - 四 區別ヲナシ週番軍曹ヲシテ患者人名簿ニ其印ヲ捺セシメ後チ之ニ檢印スヘシ

但就業トハ藥劑ヲ與フルト否ニ拘ハラズ本日ノ業ニ就カシムルモノ操練ヲ他ノ勤務ニ換ヘ或ハ學科或ハ術科ノ一半休トハ本日ノ業ヲ免シ舍内ニ休息セシムルモ寢室ニ就カテ免スル者モ亦包含スシメサルモノ全休トハ休養室ニ入レ入院トハ病院病室所在ノ地ハ病ニ送ルモノ快復トハ病ノ治シタルモノナ云フ室以下ニ做フ

三 診斷スル所ノ患者ハ其等級、氏名、傷痕疾病等差、治法及前項ニ掲グル五種ノ

一ヲ診斷簿ニ記注ス而シテ傷痕疾病等差中一等症ハ見證證書陸軍恩給證書式第二十三式ニ依テ之ヲ定ム

四 患者ニ投藥スルトキハ營内處方箋ニ其處方ヲ記シテ之ヲ患者ニ附シ藥室ニ就テ收領セシムヘシ

五 入營倉ノ者發病スルトキハ週番中隊長獨立大(中)隊ニ在テハ高級ノ通知ニ依リ之ヲ診斷シ若シ重症ニ漸ムノ微アリテ入院ヲ要スルトキハ週番中隊長ニ謀リ送院スヘシ

六 傳染病流行病アルトキハ豫防ノ方法ヲ定メ該隊長ニ報告シ且下士兵卒ニ其心得方ヲ單簡平易ニ説示スヘシ

七 常ニ兵營ノ内外ヲ巡視シ殊ニ庖厨營倉浴室及圃園溝渠等ニ注意シ若シ衛生上有害ノ事ヲ認ムルトキハ該隊長ニ報告シ之カ改良ヲ計ルヘシ

八 糧食、被服、給水及酒保ニ於ケル衛生ニ關シ不良ト認ムルモノアルトキハ各委員ニ移牒シ又ハ隊長ニ申告シテ之カ改良ヲ圖ルヘシ

九 下士兵卒入營ノ時天然痘ニ罹リシヤ否ヲ調査シ未痘者及種痘後五箇年天然痘流行ノ時ハ此限ニテナ經ル者ニハ之ニ種痘シ其成績ヲ所屬ノ隊ニ通報シテ本人手牒ノ痘畫ニ記入セシムルモノトス

十 豫備役後備軍ノ者入營スルトキハ身體検査ヲ行ヒ永久服役ニ堪ヘサル者ト一時實役ニ堪ヘサル者アルトキハ之ヲ大隊長ニ申告シテ其取扱ヲナスヘシ又新兵入營スルトキハ細密ノ身體検査ヲ施行スヘシ但身體検査ニハ其隊ノ週番士官之ニ臨場スルモノトス

十一 定例ノ衛生報告ハ月報年報ノ二種トス其報告手續ハ別ニ定ムル所ニ據ル

十二 騎砲工輜重兵隊ノ一等軍醫ニ在テハ尙第六條ノ第一及第五ノ事ヲ掌理ス

十三 歩兵隊ニ在テ本條各項中其隊長ニ報告スルモノハ豫メ二等軍醫正ニ稟議スルモノトス

第四章 二三等軍醫ノ職務

第十條 二三等軍醫ハ該隊長及該隊一等軍醫ニ隸シ休養室藥室及診斷所ノ事務ヲ擔任ス又看護長ヲ指揮シテ細務ヲ分掌セシメ且看護手ノ勤務行狀ヲ監シ及學術訓練

- ノ事ニ任ス面シテ尙左ニ掲クル事項ヲ整理ス
- 一 但一等軍醫不在ノトキハ第三章ノ事務ヲ兼掌スルモノトス
 - 二 休養室患者ノ治療ハ一等軍醫ノ指揮ヲ承ケ之ヲ擔任スヘシ
 - 三 シテ之ヲ爲サシムト雖トモ若シ不在ノ時ハ其中隊中ノ兵卒ヲ以テ之ニ充ツ
 - 四 下士ヲ休養セシムルトキハ病症ニ依リ自己ノ兼疊ニ就カシムルモ妨ケナシ
 - 五 患者ヲ病院ニ送ルトキハ看護長ヲシテ其隊ノ中隊附曹長聯(大隊附下士ニ在テハ所屬ノ下副官)ニ通報セシメ護送者及運搬者ヲ請求シ而シテ病床日誌ヲ認メ一等軍醫ノ調印ヲ受ケ一等軍醫不在ノトキハ代印シテ之ヲ護送者ニ附與シテ送院セシムヘシ但病症ニ依リテハ看護長或ハ看護手ヲシテ護送セシムルコトアルヘシ
 - 六 患者ヲ病院ニ送ルハ前日之ヲ豫報シ當日朝食後ヨリ午前十時迄ヲ定則トス但急症其他止ムヲ得サル時ハ此限ニアラス
 - 七 創傷患者ニシテ其衣袴ヲ着セシメ難キ者ハ被服委員師團司令部所在地外ニ在テハ病院ヨリ病衣ヲ受取り之ヲ着セシムヘシ
 - 八 毎朝診斷ニ臨ミ看護長ヲシテ豫メ之カ準備ヲナサシメ且患者ニハ服藥攝生ノ方法ヲ懇諭セシムヘシ

- 八 毎四週ニ一回各下士兵卒ノ身體ヲ検査シ就中眼病皮膚病生殖器病ニ注意スルモノトス此検査ヲ施行スルトキハ其隊ノ週番士官之ニ臨場スルモノトス
- 九 糧食委員ヨリ移ス所ノ獻立表ヲ點檢シテ其良否ヲ査定シ又少クモ一日一回ハ必ス其現品及調理等ヲ検査スヘシ
- 十 但其物品ニ就テハ一等軍醫ニ稟議スルコトアルヘシ
- 十一 看護長ヲシテ一日ニ一回以上休養室ヲ巡視セシメ患者ノ攝生及寢具並ニ室内ノ清潔ニ注意セシムヘシ
- 十二 兵舎ニ於ケル窓戶ノ開閉、換氣法及煖室ノ法適否、兵營内外ノ清潔法等ニ注意シ若シ有害ノ事アルトキハ一等軍醫ニ申告スヘシ
- 十三 傳染病毒ニ汚染シタル被服其他ノ物品アルトキハ其品目ト事由ヲ認メ一等軍醫ノ調印ヲ受ケ大隊長ノ認可ヲ得テ被服委員ト立會之ヲ消毒シ或ハ燒却スヘシ
- 十四 毎月末看護長ヲシテ消耗品ノ決算表ヲ調製捺印セシメタル上之ニ檢印シ被服委員ニ出サシムヘシ
- 十五 藥物及治療消耗品、治療器械、調劑器械、消耗品、雜具ノ收領並修理交換ハ其品目數額ヲ傳票ニ記シ調印ノ上一等軍醫ノ檢印ヲ受ケ看護長ヲシテ病院

消耗品雜具ニ就キ受領セシムヘシ但藥物及治療消耗品ハ翌月需用スヘキモノハ被服委員
 品目數額ヲ豫定シ毎月二十五日限リ病院ニ通報スヘシ
 十五 看護長ニ命シ毎月末ニ至リ治療消耗品ノ出納ヲ決算シ其受拂簿ニ登記調印
 セシメ藥物ハ日々調劑後ニ至リ處方箋ニ就キ決算シ其受拂簿ニ登記セシメ
 當日ノ晝ニ捺印セシム而シテ月末ニ至ルトキハ更ニ之ヲ合算セシムルモノ
 トス
 休養室外ニ於ケル患者ノ投藥時限ヲ定メ成ルヘク診斷所ニ就テ之ヲ服セシ
 ムヘシ
 藥物ハ劇藥毒藥等ヲ類別シ其貯所ヲ定メ其調劑ハ看護長ヲシテ之ヲ爲サシ
 ムルト雖トモ其劇毒藥ハ自ラ之ヲ取扱フヘシ故ニ藥室ニハ他人ノ入ルヲ禁
 スルモノトス但藥室ノ鍵ハ退營ノ時迴番中隊長ニ預ケ置クヘシ
 十六 左ニ掲クル帳簿ヲ整理ス但二等軍醫正ノ衛生事務ヲ執ル大隊ノ二三等軍醫
 ニ在テハ尙ホ聯隊ニ要スル爲メ其六其七ノ帳簿ヲ整理スルモノトス
 其一 日記一屯營
二册
晴雨寒暖、下士兵卒人員、受診人員、入院中休全休ノ人員、當
直醫官及診斷所藥室ノ當直人名其他日常ノ事ヲ記ス
 其二 診斷簿

其三 入院患者入退錄
 其四 種痘簿
 其五 體力簿
 其六 諸報告原稿綴
 其七 諸達命令進達錄
 其八 後證綴一屯營
二册
服役免除、現役免除及死
亡診斷書等ニ類別ス
 其九 藥物受拂簿同上
 其十 治療消耗品受拂簿同上
 其十一 治療器械並調劑器械簿同上
 其十二 傳票並送達簿
 其十三 營內處方箋綴
 其一乃至其五及九其十其十二ノ帳簿ハ三年間保存シ其六乃至其八ハ七年間其十三
 ハ一年半其十一ハ之ヲ改正スル迄保存スヘシ而シテ其九ハ毎月之ヲ改メ他ノ
 帳簿其十一其十
ヲ除クハ毎年一月之ヲ改ムルモノトス又師團司令部所在地外ノ病院及病室
 所在地ノ隊ニ在テハ其九其十及其十三ノ帳簿ヲ置カス

第十一條 師團司令部所在地ニ於テハ退營後在宅シテ臨時ノ診斷ニ應スヘシ但一屯營内若シハ最寄屯營ノ二三等軍醫ト聯合シ輪次在宅スルコトヲ得
 師團司令部所在地外ニ在テハ病院病室及他ノ隊附醫官ト聯合シ病院又ハ病室ニ輪次當直シ部隊ノ臨時診斷ニ應スルモノトス

第五章 野營行軍中ノ衛生事務

第十二條 一泊以上ノ野營行軍ニハ大隊毎ニ醫官一名隨行シ
歩兵ニ在テ聯隊ノ野營行軍ニハ其隨行醫官中二等軍醫正一
 等軍醫ノ内一名加ハレド、トス又砲兵ニ在 一日行軍ニハ看護長看護手ノミ 附屬セシムルモ
 テ聯隊ノ行軍ニハ醫官一名乃至二名トスノトス

醫官行軍中患者ヲ處置スル爲メ本隊ニ隨從シ能ハサル場合ニ在テハ車馬ヲ支給ス但乘馬隊ニ在テハ隊馬ヲ貸渡スコトアルヘシ

第十三條 野營行軍ノトキハ衣食住及勞働共ニ自カラ常時ト異ナルヲ以テ醫官ハ飲食物、客舎及野營地、行軍途上ノ關係ヲ殊ニ注意シ若シ意見アルトキハ隊長ニ申告スヘシ

第十四條 行軍中患者アルトキハ醫官之ヲ診斷シ左ノ等差ヲ區別シテ之ニ行軍患者等差證ヲ附與スヘシ
歩行ニ堪ヘサル者又乘馬ノ者ニ在テハ歩行乘馬共ニ堪ヘサル者

一等患者

歩行ニ堪ヘサル者又乘馬ノ者ニ在テハ歩行乘馬共ニ堪ヘサル者

二等患者

歩行シ得ルモ武器背囊等ヲ携帶シ能ハザル者又乘馬ノ者ニ在テハ乘馬シ得ルモ武器等ノ携帶ニ堪ヘサル者或ハ武器ヲ携帶シ得ルモ乘馬ニ堪ヘサル者ニシテ歩行シ得ル者

三等患者

武器背囊等ヲ携帶シ得ルモ(乘馬ノ者ニ在テハ乘馬シ得ルモ)隊伍ニ列シ能ハサル者

一等患者ハ車馬ヲ以テ送致シ二等患者ハ其携帶品ヲ脱シテ單身徒歩セシメ或ハ自馬ヲ牽カシメ獨歩セシムル者三等患者ハ隊伍ヲ除キ獨行セシムルモノトス

第十五條 宿營地ノ診斷ハ其定時限ニ於テ下士ノ引率シ來ル患者ニ就テ之ヲ施シ其處置ヲナスヘシ而シテ行軍中ハ當日ノ行軍患者表ヲ調製シ隊長ニ出スヘシ

第十六條 野營行軍中重症患者アルトキハ隊長ノ許諾ヲ得テ病床日誌ヲ附シテ陸軍病院ニ送致シ或ハ地方病院等ニ依托スヘシ

第十七條 野營行軍中傳染病流行病等アルトキハ其消毒並取扱等ハ陸軍部内ノ定規ニ據ルト雖トモ事ノ地方廳ニ沙ルモノハ隊長ヲ經テ其地方吏員ト協議ノ上取扱フヘシ

診斷所規程

第一條 診斷所ハ衛生部員ノ附屬セル各部隊ニ之ヲ置キ患者ヲ診斷シ及體格ヲ検査スル所トス

第二條 診斷所ヲ置ク部隊ニハ醫務室藥室休養室ヲ置ク但休養室ハ各隊ニ在テハ中隊毎ニ之ヲ置キ士官學校幼年學校戶山學校砲兵射的學校教導團各隊ニ在テハ中隊

ニ置カス其校園ニ一室ヲ置クモノトス

第三條 各部隊中藥室又ハ休養室ヲ置カサルモノアリ左ノ如シ

一 師團司令部所在地外ノ病院病室所在地ノ部隊監獄ヲ除ク及軍藥隊ニハ藥室ヲ置カス

二 憲兵隊蹄鐵學舍軍樂隊軍樂基本隊大阪砲兵工廠及監獄ニハ休養室ヲ置カス但監獄ニハ病檻ヲ置ク

第四條 休養室ハ二十四時間内ニ治癒スヘキ輕患者ヲ休養セシムル所ニシテ其大小ハ兵員百分ノ三ヲ基數トシテ之ヲ定ム官解ニ在テハ此基數ニ若干ヲ增加ス而シテ其容積ハ健康兵ノ容積ニ異ナルコトナシ

第五條 診斷所ハ靜肅ヲ要スルカ故ニ雜沓喧噪スルコトナキハ勿論左ノ各項ニ注意スヘシ

一 凡診斷所ニ於テ診斷ヲ受クル者ハ詳細ニ其容態ヲ告ケシムルモ無用ノ言辭ヲ述フ可カラズ

二 診斷所ニ於テハ雜談及喫烟スヘカラス

三 患者ハ指定ノ所ニ在テ週番軍曹ノ呼出ニ由リ順次ニ診斷ヲ受クルモノトス

四 診斷所ハ當番卒ヲシテ常ニ掃除セシメ清潔ヲ旨トス

●陸軍隊附獸醫官服務規則

明治二十二年一月 陸軍省達第七號

陸軍隊附獸醫官服務規則別冊ノ通定ム

(別冊)

陸軍隊附獸醫官服務規則

第一條 聯(大)隊附一等獸醫ハ該隊長ニ隸シ一般ノ定則ヲ遵奉シ馬匹ノ衛生事務、蹄鐵術及病馬看護ノ教育ヲ掌リ、二三等獸醫及蹄鐵工長以下ニ其勤務ヲ課ス

第二條 一等獸醫ハ職務上尙所管獸醫長ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條 一等獸醫ノ掌ル事項ハ大概左ノ如シ

一 馬匹衛生ニ關スル庶務

一 病馬ノ診斷及病廐ニ關スル件

一 診斷書調製ノ件

一 馬匹傳染病預防ノ件

一 芻秣飲水ノ馬匹衛生ニ關スル件

一 蹄鐵事業ニ關スル件

一 馬匹衛生上ニ關スル検査

- 一 食獸ノ検査
- 一 馬匹衛生ニ關スル報告
- 一 藥物及治療器械ノ管理
- 四 左ニ掲グル事項ニ就テハ意見ヲ聯(大)隊長ニ申告スヘシ
 - 一 廄舎ニ於ケル衛生ノ件
 - 一 馬匹使役上衛生ニ關スル件
 - 一 馬具ニ關スル衛生ノ件
 - 一 衛生上河水浴海水浴及剔毛ニ關スル件
 - 一 骨折ニ罹リ役用ニ堪ヘサル馬匹ノ撲殺若クハ賣却ノ件
 - 一 病體解剖施行ノ件
 - 一 生草若クハ特殊飼料ヲ與フルノ件
- 第五條 一等獸醫ハ毎朝所定ノ時限ニ於テ二三等獸醫及蹄鐵工(工下)長ヲ從ヘ各中隊ヨリ出ス所ノ病馬名簿ニ就テ病馬ヲ診斷ス但シ時宜ニ由リ二三等獸醫ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第六條 馬匹衛生庶務ノ細事及病馬看護ハ蹄鐵工長以下ヲ指揮シテ之ヲ行ハシム而シテ尙繁劇ニシテ人員不足ノ時ハ聯(大)隊長ニ具申シテ下士卒ヲ使用スルコトヲ得

- 第七條 馬匹衛生上ニ關スル検査ハ聯(大)隊長ノ所定ニ從ヒ之ヲ行フ其項左ノ如シ
 - 其一 定期検査 此検査ハ毎年春秋兩期ニ於テ施行シ體質ヲ甲乙丙ノ三種ニ區別シ明細表ヲ製シ之ヲ該隊長ニ報告ス
 - 甲 强健ノ者
 - 乙 普通ノ者
 - 丙 虛弱或ハ宿痾アル者
 - 其二 臨時検査 此検査ハ馬匹ノ攝養及裝鐵ヲ點檢シ其景況ヲ該隊長ニ申告ス
 - 其三 新馬検査 此検査ハ新馬入營ノ節毎匹疾病ノ有無ヲ精査シテ後來ノ参照トナルヘキモノハ詳ニ登記スヘシ
- 第八條 蹄鐵事業ニ關スル項目左ノ如シ
 - 一 蹄鐵工場ハ蹄鐵工長ヲシテ常ニ之ヲ整頓セシム
 - 二 蹄鐵ハ磨滅ノ如何ニ別ナク蹄ノ延長スル時ハ四蹄同時ニ換裝ス但シ脱鐵アルトキハ其對肢モ共ニ換裝セシム
 - 三 蹄鐵ハ一ニ成規ノ形狀積量ニ準據セシムルヲ以テ法トス但シ蹄形異常若クハ病蹄ニ在テハ此限ニ在ラス
- 第九條 兵食ニ供スルカ爲メ獸畜(牛羊ノ類)ヲ屠殺スルトキハ生活體ニ就テ之ヲ檢

查ス又肉質ヲモ検査スルコトアルヘシ

第十條 聯(大)隊馬匹衛生事務ノ報告及獸醫部一定ノ諸報告ハ期ヲ限リ調製シ捺印ノ上隊長ノ點檢ヲ經テ之ヲ獸醫長ニ出スモノトス

第十一條 藥物ハ毒藥劇藥及通常藥ノ三様ニ區分シ毒劇二藥ノ調劑ハ獸醫官自ラ之ニ當リ又藥室ノ鍵ハ退營ノ節高級古參週番士官ニ預クルモノトス

第十二條 野營行軍等ノ際獸醫扱ヲ隊屬セサル時ハ病馬看護ニ當ル者ニ馬療囊ヲ負帶セシムヘシ

第十三條 行軍中ノ病馬ハ之ヲ左ノ三種ニ區別シ所屬隊長ニ申告スヘシ

其一 歩行ニ堪ヘサル者

其二 歩行シ得ルモ役用ニ堪ヘサル者

其三 役種ヲ換フルニアラサレハ使用スヘカラサル者

其一ハ地方ニ托シテ治療セシメ又ハ撲殺若クハ賣却ノ處分ニ付シ其二ハ役用ヲ免シ或ハ脱鞍シ其三ハ役種ヲ換フヘキ者

第十四條 獸醫官室ニハ常ニ所要ノ書籍帳簿ヲ備フ

第十五條 此規則ハ騎兵砲兵輜重兵隊附獸醫官ノ服務ヲ掲クルモノナリト雖トモ官廳附獸醫官ノ服務モ亦本則ニ準據スヘキモノトス但シ一等獸醫アラサル部隊ニ在

テハ高級古參ノ獸醫ナシテ其職務ヲ執行セシム

●陸軍軍樂隊編制表

明治二十三年九月
陸軍省達第百八十七號

陸軍軍樂隊編制別表ノ通被定

(別表)

陸軍軍樂隊編制表

階級	職	陸軍軍樂隊編制表	
		分	員
一等軍樂長	隊長	一	一
二等軍樂長	隊長	一	一
軍樂次長	次長	一	一
一等軍樂手		三	三
二等軍樂手		六	六
樂手補		二七	二七

樂	生	計	一二三等書記	一二三等看護長	計	合	備	考
一	二	五〇	一	一	二	五二	一軍樂隊ニハ別ニ醫官ヲ附セス病院又ハ隊附醫官ノ内一名ヲ以テ衛生攝養ノ事ヲ兼掌セシム	二樂手補及樂生ハ兵卒トス但シ樂手補ハ上等兵、樂生ハ一、二等卒相當トス

●屯田兵條例改正

明治二十三年八月 勅令第百八十一號

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵條例

第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ

第二條 屯田兵ハ兵農相兼ナルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及

開墾耕稼ニ從事セシム

第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム

第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役三箇年豫備役四箇年後備役十三箇年トス

服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若クハ事故ニ由リ免役シタルトキハ其家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシム若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス

第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第八條 此條例實施以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

- 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム

- 一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
 - 一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
 - 一 明治二十二年以後ニ召募シタル者ハ此條例ニ依ル
 - 第九條 明治二十一年以前ニ召募シタル屯田兵ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル
 - 明治二十二年及明治二十三年ニ於テ召募シタル者ノ現役年期ハ屯田兵編入ノ當日ヨリ起算シ豫備役後備役年期ハ前役滿期ノ翌日ヨリ起算ス
 - 第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス
- 屯田兵司令部條例 明治二十三年八月 勅令第百八十二號
- 朕屯田兵司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 屯田兵司令部條例
- 第一條 屯田兵司令官ハ少將ヲ以テ之ニ補シ直ニ

- 天皇陛下ニ隸シ屯田兵ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス
- 第二條 司令官ハ屯田兵ノ出師準備ヲ整理シ部下軍隊ノ練成ニ就テハ其責ニ任ス
- 第三條 司令官ハ屯田兵ノ徵募補充並ニ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル
- 第四條 司令官ハ不慮ノ侵襲ニ際シ北海道ノ防禦及陸軍諸官廨諸建築物ノ保護ニ任ス
- 北海道廳長官地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ司令官直ニ之ニ應シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ若シ其事變危險ニシテ北海道廳長官ノ請求ニ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ司令官兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得
- 第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ司令官一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ
- 第六條 司令官ハ北海道ニ在ル軍隊及陸軍官廨ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議及監獄ヲ管轄ス
- 第七條 司令官ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參謀總長ノ區處ヲ受ク司令官ハ此兩官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期又ハ臨時報告ヲ爲ス可キモノトス
- 軍隊及移住給與上ニ關スル事ニ就テハ屯田兵監督都長タル監督ヲ指揮ス

朕屯田兵監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵監督部條例

第一條 屯田兵監督部ハ屯田兵司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ屯田兵隊會計事務ヲ監督シ屯田兵官衙ノ會計事務ヲ監視シ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件銃彈藥及其他ノ兵器ヲ除クヲ検査シ且屯田兵所在地内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 屯田兵監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 二三等監督 一人

部員 監督補 一人

副部員 一二等軍吏 二人

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊及移住給與上ニ關スル事項ニ付テハ屯田兵司令官ノ命令ヲ承ク可シ

監督部ハ戰時若シハ事變ニ際スルトキ及演習ニ於テ必要アルトキハ屯田兵司令官ニ隸屬ス

第四條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 部長ハ監視監督ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 部長ハ屯田兵官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閲檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙及軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニ在テハ閲檢前屯田兵司令官ノ承認ヲ經ルモノトス

第七條 部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條 副部員ハ上官ノ命ヲ承ケ主務ニ服ス

第九條 第二條ニ掲グル職員ノ外軍吏部下士若干名ヲ置

第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省

●海軍省官制改正

明治二十三年三月 勅令第五十二號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

第二條 海軍大臣秘書官ハ佐官又ハ主計監ヲ以テ之ニ補ス

第三條 海軍大臣官房ニ主事一人副主事一人ヲ置ク主事ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ副主事ハ主計監ヲ以テ之ニ補ス

第四條 主事ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ル副主事ハ主事ヲ助ク

第五條 海軍省ニ總務局ヲ置カス

第六條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス

第七條 海軍省ニ左ノ諸局ヲ置ク

第一局

第二局

第三局

第八條 第一局長及第二局長ハ少將第三局長ハ主計總監ヲ以テ之ニ補シ各課長ハ上長官課次長ハ士官ヲ以テ之ニ補ス

軍法課長及軍法課次長ハ東京軍法會議ノ主理ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 第一局ニ於テハ教育、訓練、紀律、徵兵、給與及人ニ關スル經費豫算ノ調製ヲ掌リ第一課第二課第三課軍法課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十條 第二局ニ於テハ艦船兵器ノ製造修理、兵器彈藥艦船營需品ノ準備供給、土地家屋ノ保管營繕及物ニ關スル經費豫算費ノ調製ヲ掌リ第一課第二課第三課第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十一條 第三局ニ於テハ經費豫算ノ統理其他會計事務ノ整理並省中用度ノコトヲ

掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十二條 課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス課次長ハ課務ノ一部ヲ分擔シ課長事務アルトキハ之ヲ代理ス

第十三條 海軍省ニ技師上等兵曹機關師船匠師厨技手ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム

第十四條 海軍省ノ人員ハ別表定ムル所ニ依ル

海軍省職員定員表

大次			
第一		大臣官房	
局長		主事	大佐
		副主事	主計監
		祕書官	佐官又ハ主計監
第一課	第二課		
課長 佐官	課長 佐官		
一課次長 大尉	一課次長 大尉		
一	一	二	一
上等兵曹		技師	
			一
			四

臣官							
第三局		第二局				第一局	
局長 主計總監		少局長 將				少將	
課二第	課一第	課四第	課三第	課二第	課一第	課法軍	課三第
課長 主計監	課長 主計監	課長 主計監	課長 佐官	課長 技監	課長 佐官又 技監	課長 主理	課長 主計監
一	一	一	一	一	一	一	一
課次長 大主計	課次長 大主計		課次長 大尉又 大機關士	課次長 大技士	課次長 大尉又 大技士	課次長 主理	課次長 大主計
一	一		一	一	一	一	一
枝手		屬		船匠師		機關師	
十一		六十五		二		一	

局	
總計 百十二人	
課三第	課長 主計監
一	課次長 大主計
一	

●海兵團規則

明治二十二年十月
海軍省達第四百二十二號

海兵團規則左ノ通定ム

海兵團規則

- 第一條 海兵團ノ紀律ハ一ニ軍艦ニ準ス
- 第二條 海兵團ノ日課ハ軍艦兵員部署程式ニ掲ケル日課定則ニ準シテ施行ス
- 第三條 海兵團在營ノ下士卒中軍艦及隊應定員ノ補缺ニ充ツヘキ者ヲ補充兵ト稱シ
五等卒ヲ新兵ト稱ス
- 第四條 分隊ハ分テ若干ノ小分隊トス
一分隊ノ人員ハ百四十人ヲ定限トシ小分隊ノ人員ハ二十人ヲ定限トス
- 第五條 小分隊ハ左ノ區別ニ從ヒ編制スルモノトス但一項ノ人員十人ニ滿タサルト
キハ他項ノモノヲ併セテ小分隊ヲ編制ス可シ

- 一、兵曹及水兵第二項第三項第四項第八項ニ當ル者ヲ除ク
 - 二、掌砲兵第八項ニ當ル者ヲ除ク
 - 三、掌水雷兵同上
 - 四、信號兵同上
 - 五、船匠手鍛冶手木工及鍛冶同上
 - 六、看護手及看病夫同上
 - 七、主帳及厨夫同上
 - 八、軍港各應勤務ノ下士卒
- 第六條 機關手火夫ハ條例第三條ニ依リ一部若クハ若干部トシ部ヲ分テ若干小部トス
- 部ノ人員小部ノ人員ハ分隊小分隊ニ同シ
- 第七條 海兵團ニ衛兵ヲ置ク
- 海兵團衛兵ノ規則ハ艦内衛兵規則ニ依ル
- 第八條 衛兵ハ各分隊ヨリ平均ニ定員中ノ兵曹水兵ヲ取リ之ニ充ツ
- 第九條 衛兵ハ團長室士官室禁錮室囚人ヲ營門倉庫及軍港内ノ官廳彈藥庫其他番兵ヲ要スル所ニ配置ス

- 第十條 定員中ノ主帳若干名ヲ書記トシテ徵募官ニ屬シ其命ヲ受ケ服務セシム
- 第十一條 補充員ハ豫備艦非役艦及各艦ニ於テ臨時ノ業務アルトキハ使役スルコトヲ得
- 臨時補充員ヲ使役セントスルトキハ艦長艦長ヨリ軍港司令官ニ申出該司令官ヨリ團長ニ通達スルモノトス
- 第十二條 在營ノ下士卒品行不正勤務怠慢又ハ屢刑罰ニ處セラレ軍紀風紀ニ害アル者ハ懲治員ト爲シ他ノ下士卒ト區別シ勤務ノ外營内ノ雜役ニ服セシム
- 第十三條 團長定員補充ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ海軍下士卒補充規則ニ依リ補充スヘシ但補充ノ前軍醫長ヲシテ身體ヲ検査セシメ勤務ニ堪ヘサル者アルトキハ次期ノ補充ニ充ツ可シ
- 第十四條 團長下士卒ヲ懲治員ト爲シ又ハ復隊セシムルトキハ分隊長ニ諮問シ之ヲ處分ス可シ機技部軍醫部主計部ノ下士卒ナルトキハ分隊長機關長軍醫長主計長ニ諮問シ之ヲ處分ス可シ
- 第十五條 團長ハ團營火災消防ノ爲メ防火部署ヲ定メ不虞ノ變ニ備フヘシ
- 第十六條 團長ハ常ニ紀律及教育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ軍港司令官ニ具申ス可シ

- 第十七條 團長紀律及教育ニ關シ會議ヲ要スルコトアルトキハ副長分隊長機關長ヲ會同シ會議ヲ開キ團長議長トナリ審議決定ス可シ但時宜ニ依リ軍醫長主計長ヲ會同セシムルコトヲ得
- 第十八條 團長ハ新兵ノ卒業者アルコトニ其試驗成績表ヲ製シ之ヲ軍港司令官ニ出ス可シ
- 第十九條 團長ハ徵募官派出ノ期ニ先チ隨行セシムヘキ主帳看護手ヲ海兵團定員中ヨリ選定シ鎮守府司令長官ニ具申スヘシ
- 第二十條 團長ハ毎月徵募官ヨリ出シタル兵員異動表及現役兵員調ヲ鎮守府司令長官ニ進達シ又第一局長ニ出ス可シ
- 第二十一條 副長ハ營内警察ノ事ヲ擔任シ且分隊長以下諸員ノ勉否ヲ監視ス可シ
- 第二十二條 副長ハ團長ノ命ヲ受ケ諸部署表ヲ調製シ且課業ニ係ル事ヲ整理ス
- 第二十三條 副長ハ團長ノ命ヲ受ケ教授及試驗ノ事ヲ整理ス
- 第二十四條 分隊長ハ隊員ノ勤怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス又隊員ノ教授及試驗ノ事ヲ掌リ且分隊ノ事務ヲ掌理ス
- 第二十五條 分隊長ハ各部署ノ長ト爲リ部署員ヲ訓練シ各自負擔ノ兵器要具ヲ整頓セシム可シ

- 第二十六條 分隊長ハ隊員中懲治スヘキ者アルトキハ副長ヲ經由シ團長ニ具申ス可シ
- 第二十七條 分隊長事故アルトキハ他ノ分隊長其代理ヲ爲ス可シ
- 第二十八條 徵募官ハ別ニ定ムル所ノ服務規則ニ依リ其主務ヲ掌理ス
- 第二十九條 機關長ハ其部下諸員ノ勤怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス又教授及試驗ノ事ヲ掌リ且部務ヲ掌理ス
- 第三十條 機關長ハ部員中懲治スヘキ者アルトルハ副長ヲ經由シ團長ニ具申ス可シ
- 第三十一條 機關士ハ機關科各部ノ長ト爲リ其部下ヲ統率シ機關長ノ命ヲ受ケ教授及試驗ノ事ヲ擔任シ且部務ニ服ス又機關長事故アルトキハ先任ノ者其代理ヲ爲シ
- 第三十二條 軍醫長事故アルトキハ先任ノ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ先任ノ主計其代理ヲ爲ス
- 第三十三條 掌砲長ノ中一人ハ兵器彈藥ヲ保護整頓シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ出納シ一人ハ砲術ノ教授ニ從事ス
- 第三十四條 掌水雷長ハ其主管ニ屬スル器具物品ヲ保護出納シ又水雷術ノ教授ニ從事ス

- 第三十五條 掌帆長ノ中一人ハ帆綱端舟其他ノ船具ヲ保護整頓シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ出納シ一人ハ運用術ノ教授ニ從事ス
- 第三十六條 船匠師ノ中一人ハ端舟ノ保護及營内匠作ノ事ヲ擔任シ其主管ニ屬スル需用物品ヲ保護出納シ一人ハ木工ノ教授ニ從事ス
- 第三十七條 機關師ノ中一人ハ海兵團附屬蒸氣船ノ機關ノ事ヲ擔任シ一人ハ機關部下士卒ノ教授ニ從事ス
- 第三十八條 信號練習兵ノ教授ニ從事ス
- 第三十九條 教員ハ各分隊長機關長ニ分屬シ下士卒ノ教授ニ從事ス
- 第四十條 伍長ハ各分隊ニ分屬シ小分隊又ハ小部ノ長ト爲リ隊務部務ニ從事シ又衛兵司令ヲ指揮ヲ受ケ衛兵伍長ノ勸務ヲ爲ス
- 第四十一條 艇長ハ端舟ヲ保管シ及其屬具ヲ整頓ス
- 第四十二條 海兵團定員中本則ニ於テ其職務ヲ掲記セサル者ハ總テ軍艦職員條例ニ依リ服務スルモノトス

●海軍省處務細則

明治二十二年二月
海軍省達第六十一號

海軍省處務細則別冊ノ通改定ス

(別冊)

海軍省處務細則

第一章 事務分課

- 第一條 大臣官房ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
 - 一、海軍部外ヨリ到達スル文書ヲ接受配付スル事
 - 二、閣議ニ呈出スル文書ヲ審査スル事
 - 三、省令達訓令告示指令ヲ發付スル事
 - 四、軍艦ノ役務變換軍艦軍隊ノ進退ニ關スル事務
 - 五、官制及各廳定員ニ關スル事務
 - 六、文官教官主理ハ除クノ進退身分ニ關スル事務恩給ハ除ク
 - 七、文官教官主理ハ除クノ履歷名簿ヲ整頓スル事
 - 八、文官名簿海軍職員錄ヲ編製スル事
 - 九、驛遞飛信送達ノ事
 - 十、戒嚴令徵發令ニ關スル事項取扱ノ事
 - 十一、暗號電信取扱ノ事
 - 十二、海外軍信發送接受ノ事

- 十三、陪食陪宴參贊參拜謁等ニ關スル事務
 - 十四、外國駐劄公使ニ係ル往復文書調査ノ事
 - 十五、雇外國人ニ關スル事務
 - 十六、三局ノ主管外ニ係ル事務
- 第二條 官房附屬記録課ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
- 一、公文分類編纂整頓休存ノ事
 - 二、年報編纂ノ事
 - 三、統計整理ノ事
- 第三條 第一局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
- 第一課
- 一、將校准將校及其候補生ノ任官增俸進級敘位敘勳及職課命免其他身分ニ關スル事務
 - 二、將校准將校及其候補生ノ服務規程並軍紀風紀ニ關スル事
 - 三、將校准將校及各候補生生徒ノ教育演習及候補生生徒ノ採用ニ關スル事務
 - 四、將校准將校及其候補生ノ學術檢査ニ關スル事務
 - 五、檢閱ニ關スル事項

- 六、將校准將校ノ進級年限ニ係ル諸例規ノ事
 - 七、敘勳ニ關スル諸例規ノ事
 - 八、儀式禮典ニ關スル事務
 - 九、服制旗章及徽章ニ關スル事務
 - 十、將校准將校及其候補生ノ履歷名簿ヲ整頓スル事
 - 十一、停年名簿武官名簿編纂ノ事
 - 十二、教官^{官文}任官增俸進級敘位敘勳職課命免其他身分ニ關スル事務並其履歷名簿ヲ整頓スル事
 - 十三、海軍豫備員及商船學校規則ニ關スル事務
- 第二課
- 一、徵兵志願兵ノ諸制規及之ニ關スル事務
 - 二、准士官下士卒ノ任官進級增俸敘勳及其他身分ニ關スル事務
 - 三、准士官下士卒ノ服務規程並ニ軍紀風紀ニ關スル事
 - 四、准士官下士卒ノ教育訓練ニ關スル事務
 - 五、准士官下士卒ノ學術檢査及演習ニ關スル事務
 - 六、下士卒服役ニ關スル事務

海軍省處務
細則中改正
明治二十二年六月
海軍省達第百八
十三號
本年三月達第六
十一號海軍省處務
細則第三條第二課
掌理事務第十項中
一及下士卒ノ名簿
ノ七字ヲ删除ス

- 七、艦營定員及艦内兵員部署法ニ關スル事務
- 八、善行章條例ニ關スル事務
- 九、艦營備夫ニ關スル事務
- 十、准士官履歷名簿及下士卒ノ名簿調製ノ事
第三課
- 一、軍人軍屬ノ俸給諸給旅費其他給與ノ規則ニ關スル事務
- 二、下士以下被服給與ノ制規ニ關スル事務
- 三、軍人軍屬ノ糧食給與ノ制規ニ關スル事務
- 四、糧食被服ノ准備供俸ノ制規ニ關スル事務
- 五、藥品療用品及患者供給ノ制規ニ關スル事務
- 六、軍人及教官主理錄事ノ俸給諸給糧食費被服費演習費學生費治療費囚徒費扶助
金ノ豫算ヲ爲ス事
- 七、恩給諸制規及恩給ニ關スル事務
- 八、囚人給與ノ制規ニ關スル事務
軍法課
- 一、刑法治罪法監獄則ニ關スル事務

- 二、懲罰令諸罰則ニ關スル事務
- 三、海軍軍法會議ノ裁判及其事務ノ監查ニ關スル事項
- 四、軍法會議及普通裁判所ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スル事務
- 五、主理錄事ノ任官增俸進級敘勳及職課命免其他身分ニ關スル事務
- 六、主理錄事ノ履歷名簿ヲ整頓スル事

第四條 第二局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

- 一、兵器彈藥及屬具ノ數額ヲ定メ製造改造修理配備供給ノ法ヲ整理スル事
- 二、艦船兵裝ノ大體ヲ定メ計畫方案及入費概算書ヲ調査スル事
- 三、兵器彈藥及水雷費及之ト性質ヲ同フスル臨時費ノ豫算ヲ爲ス事
- 四、兵器彈藥ニ關スル規則訓令ヲ立案調査スル事
- 五、兵器製造所火藥製造所各鎮守府兵器部工場及武庫火藥庫ノ構造設置存廢ニ關
スル事務
- 六、兵器簿兵器履歷簿兵器目錄ヲ整頓スル事
第二課
- 一、新製スヘキ艦船ノ大體計畫及建造所ヲ査定スル事

- 二、内國私立造船所ニ注文スル艦船ノ製造條約ヲ調査スル事
 - 三、外國ニ注文スル艦船ノ製造條約及購買條約ヲ調製シ之ニ關スル事項ヲ調査スル事
 - 四、船體機關及其屬具ノ製造改造及造船部ノ新築改築工業用諸器械計畫及其入費概算書ヲ調査スル事
 - 五、造船及修理費及之ト性質ヲ同フスル臨時費ノ豫算ヲ爲ス事
 - 六、艦船及造船部ノ工場工業用物品ノ保存廢棄賣買ニ關スル事項ヲ調査スル事
 - 七、船體機關及屬具ノ製造材料及造船部ノ工業用材料ノ試験報告ヲ調査スル事
 - 八、艦船籍艦船明細簿艦船目錄艦船表及造船部ノ明細表ヲ調製シ之ニ關スル事務取扱ノ事
 - 九、船體機關ニ關スル規則ヲ立案調査スル事
 - 十、船體機關ノ性質ニ關スル報告書ヲ調査スル事
 - 十一、般體機關ノ試験及検査報告ヲ調査スル事
- 第三課
- 一、艦營ノ測器船具其他艦船附屬具及石炭其他艦營需用品ノ品種數額ヲ定ムル事及其配備供給ノ制規ニ關スル事務

- 二、艦船ノ艦裝ニ關スル方案及其入費概算書ヲ調査スル事
- 三、艦營需品費測器費ノ豫算ヲ爲ス事
- 四、艦裝若シハ艦營需用品ニ關スル訓令規則ヲ立案調査スル事
- 五、艦營需用品倉庫ノ構造設置存廢ニ關スル事務

第四課

- 一、海軍一般ノ營繕ニ關スル設計並其人費概算書ヲ調査スル事
- 二、營繕費及之ト性質ヲ同フスル臨時費ノ豫算ヲ爲ス事
- 三、官有地目錄並増減報告調製ノ事
- 四、海軍所屬不動産受授貸付離權及官民所有不動産借上返付ニ關スル事務
- 五、土木工事受負並不動産賣買入札契約ノ規則ニ關スル事務
- 六、鎮守府ニ屬セサル不動産直接管理ノ事
- 七、鎮守府ニ屬セサル諸廳ノ營繕直接取扱ノ事

第五條 會計局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

- 一、海軍一般歳入出豫算ヲ統理スル事
- 二、歳入出科目ニ關スル事務

拂フヘキ經費金ノ内他ノ局課ノ所掌ニ屬セサル豫算ヲ爲ス事

五、本省ニ於テ支拂フ收入經費ノ出納計算書ヲ調製スル事

六、本省ニ於テ支拂フ經費ノ仕拂計算書ヲ調製スル事

六、官報代價及乗馬飼養料徴收ニ關スル事務

八、保證金及寄托金預金ヲ出納スル事

九、諸抵當品ヲ管守スル事

十、航海艦船乗組者留主宅渡金取扱ノ事

第六條 各局課主務ニ屬スル事項中明記セサル事件アルトキハ其事ニ關係ナ有スルコト最モ大ナル局課ニ於テ處理シ各局課ニ全ク關係ナキ事件ハ官房ニ於テ處理スルモノトス

第七條 局長事故アリテ局務ヲ處理スルコト能ハサルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外先任課長其事務ヲ代理スヘシ

第八條 課次長ハ平常課長ノ命ヲ受ケ其命セラレタル課務ノ一部ヲ分擔整理シ課長事故アルトキハ其代理ヲ爲スヘシ

第二章 文書取扱

第九條 大臣親展書類及海軍部外ヨリ海軍大臣海軍次官又ハ海軍省ニ宛テ到來スル

公文ハ大臣官房ニ於テ受領シ海軍部内ヨリ到來スルモノニシテ各局ノ主務ニ屬スルモノハ各局其他ハ大臣官房ニ於テ受領スルモノトス

第十條 大臣官房ニ於テ受領セル公文ハ主事其屬員ヲシテ受領月日件名番號ヲ件名簿ニ登記セシメ次官ノ意ヲ承ケ又ハ恒例ニ照シテ處分スヘシ

大臣親展ノ書類中各局ノ主務ニ屬スルモノハ主事ヨリ直チニ局長ニ送付シ各局ノ主務ニ屬セサルモノハ主事次官ノ命ヲ承ケテ之ヲ處理スヘシ親展ニテ到來セル書面ト雖モ普通事件ナルトキハ前項ニ照シテ取扱フヘシ

第十一條 各局ニ於テ海軍部内ヨリ其主務ニ屬スル公文ヲ受領セルトキハ局長其專屬員ヲシテ受領月日件名番號ヲ受領簿ニ登記セシムヘシ

受領簿ハ其受ケタルトキニ記入スルニ止マリ其後ノ送受ハ記入スルヲ要セス唯局限處分濟ト大臣決裁濟トハ朱書ニテ記入シ置クヘシ

第十二條 各局ニ於テ受領セル公文中其主務外ノモノアルトキハ其事件ノ主務ト見認ル局又ハ官房ニ文書送受票ヲ以テ送付スヘシ

甲局ニ於テハ乙局ノ主務ト見認ムルモ乙局ニ於テ之ヲ其主務ト見認サルコトアルトキハ局長又ハ局長ノ委任ヲ受ケタル者ヲシテ而議セシメ議合ハサレハ次官ノ決ヲ受グヘシ

第十三條 各局長ハ公文ヲ査閲シ主務ノ課長ニ之カ處分方ヲ示シテ下付スヘシ

第十四條 課長ヨリ下付ノ公文ヲ審査シ大臣次官ノ閱覽ニ供スルコト止マルモノハ供覽ノ印ヲ捺シ自己ノ認印ヲ紙端ニ捺シ局長ニ出スヘシ其呈議閣議ニ呈出スルモ發令令指令等ヲ云照會回答ヲ要スルモノハ其案ヲ付シ局長ニ出シ局長認印シテ課長ニ返付シ課長ハ文書送受票ヲ以テ之ヲ主事ニ送付スヘシ

第十五條 各局ニ於テ受領セル公文中大臣ヨリ發令又ハ回答ヲ要スルコト及ハサルモノハ局限り處分スヘシ

第十六條 呈議發令照會回答案ヲ付シ大臣次官ノ決議ヲ受クルコトハ所定ノ野紙ヲ用ヒ左ノ書式ニ從ヒ認印スヘシ

但關係ノ局課ハ主務ノ局課ノ次ニ書スヘシ

大臣 次官 主務 局長 主務課長

第十七條 各局ニ於テ受領セル公文中後日ニ至ラサレハ處理シ難キモノハ其旨ヲ付記シ大臣次官ノ檢印ヲ受ク記録庫ニ保存シ置クヘシ

第十八條 他局ニ關係アル文書ハ主務局ニ於テ立案シ文書送受票ヲ以テ關係局ノ局長專屬員ニ送付スヘシ專屬員ハ之ヲ局長ニ出シ局長認印ノ後課長ヲシテ認印セシムヘキノハ之ニ認印セシムルノ後

モ 文書送受票ヲ以テ大臣官房ニ送付スヘシ

第十九條 大臣官房ニ於テ各局ヨリ送付ノ公文ヲ受領シタルトキハ之ヲ件名簿ニ登錄シ主事之ヲ大臣又ハ次官ニ出シ其檢印ヲ受クヘシ

第二十條 大臣次官ノ決裁ヲ經タル諸文案ハ官房ニ於テ淨書校合シ主事之ニ檢印シ可成其日ノ中ニ發付シ原書ニ發付月日ヲ記入シ記録課長ニ回付スヘシ

但文書ニ付屬ノ簿冊表面圖面等ハ各主務局ニ於テ淨書スヘシ

第二十一條 主事各局ノ主務ニ屬スルモノヲ發付シタルトキハ其番號ヲ主務局ニ通知スヘシ

但官報ニテ公布スルモノ又ハ摺物ニテ一般ニ達スルモノハ通知ヲ要セス

第二十二條 大臣次官決裁ノ文書ハ記録庫ニ收藏スルモノトス

第二十三條 各局課ニ於テハ處務參照ノ爲メ記録庫ニ在ル文書ヲ庫内ニ於テ閱覽シ又ハ局課ニ携帶シ閱覽スルヲ得ルト雖モ必ス其日ノ中ニ還付スヘシ

第二十四條 件名簿受領簿文書送受票ニ記入スル書類ノ番號ハ其差出廳ノ番號ヲ川フヘシ

第二十五條 本省ニ於テハ官房ニ一ノ件名簿ヲ備ヘ各局ニ一ノ受領簿ト發送簿ヲ備フ其他文書發送接受ノ爲メ簿冊ヲ備フルヲ得ス

受領簿ニハ省外ヨリ到來スル文書ノ件名番號到達月日ヲ記入シ發送簿ニハ局ヨリ起リテ省外ニ出ルモノ、件名番號發送月日ヲ記入ス省外ヨリ入りタルモノニ付帶シ更ニ省外ニ出ルモノハ其出入ヲ受領簿ニ記入シ局ヨリ起リ省外ニ出テタルモノニ付帶シ省内ニ入ルモノハ其出入ヲ發送簿ニ記入スルモノトス

省中文書ノ送受ハ文書送受票ヲ用フ送付者票面ニ番號番號ナキトキハ件名ヲ記シ印ヲ捺シテ送レハ受領者該票ニ印ヲ捺シテ返付ス送付者ハ該票ヲ領置シ以テ他日ノ搜索ニ便ニスヘシ

第二十六條 省中ニ於テハ文書ヲ以テ往復スルコトヲ許サス甲局課主務ノ事件ニシテ乙局課ニ關係アリ乙局課ノ意見ヲ問フヲ要シ且書面ニテ扣置クヲ要スルカ如キ事アルトキハ甲局課ニテ問題ヲ草シ乙局課ニ回付スヘシ乙局課ニ於テ異議ナキトキハ之ニ檢印シ答辭ヲ要スルトキハ其紙尾ニ答辭ヲ簡略ニ記シ乙局課ニハ別ニ寫テ止メス甲局課ニ之ヲ保管スヘシ

第二十七條 大臣次官ノ決裁ヲ受クヘキ文書他局課ノ意見ヲ問フ文書其他省中ニテ授受スル文書ノ扣又ハ寫ヲ各局課ニテ保存スルヲ許サス

但執務者ニ於テ手許ニ備置カサルヲ得サル文書ヲ抄録シ置クハ妨ナシ

●海軍省處務細則中追加改正

明治二十二年六月
海軍省達第百七十三號

本年^三達第六十一號海軍省處務細則第一條第十五項ノ次ヘ左ノ一項ヲ加ヘ第十六項ヲ第十七項トス

第十六項 海軍將官會議事務取扱ノ事

同則第三條第三課掌理事務中ニ左ノ一項ヲ加フ

第九項 病院監獄ニ關スル事務

同則第十七條ニ第十七條乙ヲ加ヘ第二十一條ヲ改正スルコト左ノ如シ

第十七條乙 各局ニ於テ受領セル公文中海軍部内ノ上申伺ニシテ詮議ニ及ヒ難キモノアルトキ局長ハ大臣次官ノ旨ヲ承ケ簡單ノ理由ヲ手簡ニ認メ本書ニ添ヘ返却ス可シ各局ノ主務ニ屬セサルモノハ主事之ヲ行フヘシ

第二十一條 各局其主務事項ニツキ大臣次官ノ決議ヲ受クルニハ主務課長ニ於テ決裁通知票ニ件名番號番號ナキトキハ件名ヲ記載シ文書ニ添付シテ主事ニ送シ決裁濟ノトキハ主事該票ニ決裁濟及其月日ヲ記入シ捺印シテ主務課長ニ送付スヘシ主務課長該票ヲ受領シタルトキ其一半ハ切斷捺印シテ主事ニ返付シ該票ハ一覽ノ後專屬員ニ送付シテ局長ノ閱覽ニ供スヘシ

但官報ニテ公布スルモノ又ハ摺物ニテ一般ニ達スルモノハ決裁通知票ヲ付スルヲ要セス

●海軍省處務細則中改正刪除

明治二十三年四月
海軍省第六十八號

海軍省處務細則左ノ通改正刪除ス

第一條第二項第三項第四項改正

- 二、呈議案省令達訓令告示指令ヲ審査シ之ヲ發付スル事
- 三、公文書類ヲ編纂保存シ主務局主務課ヲシテ編纂保存セシムルモノヲ除ク諸例則チ改正刊行スル事
- 四、年報統計ヲ整理スル事及官報登載事件ニ關スル事

第二條刪除

第三條中「左ノ如シ」ノ下ニ「但本局ノ分擔調製スヘキ豫算ノ科目ハ別ニ定ムル所ニ依ル」ノ二十六字ヲ加ヘ第三課ノ部ヲ左ノ如ク改正ス

第三課

- 一、俸給其他給與規則ニ關スル事務
- 二、被服糧食經理ニ關スル事務
- 三、治療品經理ニ關スル事務

第四條中「左ノ如シ」ノ下ニ「但本局ノ分擔調製スヘキ豫算ノ科目ハ別ニ定ムル所ニ依ル」ノ二十六字ヲ加ヘ第一課ノ部第一項「供給」ノ下ニ「出納」ノ二字ヲ加ヘ第

三項ヲ刪除シ第二課ノ部第五項ヲ刪除シ第三課ノ部「供給」ノ下ニ「及出納整理」ノ五字ヲ加ヘ第三項ヲ刪除シ第四課ノ部第二項ヲ刪除ス
第五條改正

第三局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

- 一、海軍一般歳入出豫算ヲ統理スル事
- 二、歳入出科目ニ關スル事務
- 三、豫定經費要求書ヲ調製スル事
- 四、仕拂豫算書調製及之ニ關スル事務
- 五、收入支出總報告書ヲ調製スル事
- 六、海軍一般歳入出決算報告書ヲ調製スル事
- 七、造船材料資金會計計算書調製及之ニ關スル事務
- 八、繰越計算書調製及之ニ關スル事務
- 九、過年度支出ニ關スル事務
- 十、定額戻入ニ關スル事務
- 十一、歳入歳出統計ニ關スル帳簿ヲ管理スル事

- 十二、豫備金ニ關スル事務
- 十三、歳入及應費機密費ノ豫算ヲ爲ス事
- 十四、造船材料資金歳入歳出ノ豫算ヲ爲ス事
- 十五、豫算實算對照調査ノ事
- 十六、出納官吏ノ保證金ニ關スル事務
- 十七、豫算出納決算ニ係ル諸例規ニ關スル事務
- 十八、簿記證書様式ニ關スル事務

第二課

- 一、官有財産管理ノ規則ニ關スル事務
- 二、財産目録土地建築物
艦船ヲ除ク財産増減報告書ヲ統理スル事
- 三、財産統計簿ヲ管理スル事
- 四、物品會計規則ニ關スル事務
- 五、他局ノ主管ニ屬セサル兵備品會計規則ニ關スル事務
- 六、四項五項ノ物計統計簿ヲ管理スル事
- 七、海軍財産離權土地建築物
艦船ヲ除ク及物品賣却ニ關スル事務
- 八、物品賣買貸借ノ規則ニ關スル事務

- 九、本省及主務官ヲ置カサル東京各應用ノ物品購買供給、通信運搬、舟車馬使役ニ關スル事務及監護使丁給仕馭者馬丁人夫ヲ支配スル事
- 十、諸艦札舟車乗用券取扱ノ事
- 十一、本省構内取締ノ事

第三課

- 一、本省ニ於テ收入スル諸種ノ收入ヲ納入スル事
- 二、本省費及本省ニ於テ支拂フヘキ軍事費臨時歳出仕拂ヲ爲ス事
- 三、本省收入監督官及收入官吏ニ屬スル事務
- 四、經費支出ニ關スル事務

第八條改正

局長ハ部下判任官ヲ各課ヘ配置スヘシ但分課ノ定マリアルモノハ其定メニ違フコトヲ得ス局長ハ部下ノ屬一人ヲ專屬員トシテ使役スルコトヲ得

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

局又ハ官房ノ主務ニ屬スル官件ニ付呈議發令照會案ヲ提出スルトキモ亦前項ニ依ルヘシ

第十七條改正

各局若クハ大臣官房ニ於テ受領セル上申伺中當分詮議ニ及ハレ難キモノ又ハ到底詮議ニ及ハレ難キモノハ局長若クハ主事ニ於テ大臣次官ノ旨ヲ承ケ詮議ニ及ハレ難キ理由ヲ附記シテ返却スヘシ

第十七條 乙 刪除

第十八條 改正

他局ニ關係アル文書ハ主務局長主務課長捺印ノ後主務課長ヨリ關係局ノ主務課長ニ送付スヘシ關係局ノ主務課長ハ捺印シ局長ノ捺印ヲ受ケ大臣官房ニ送付スヘシ

第二十條 改正

大臣次官ノ決裁ヲ經タル文書ノ發付ヲ要スルモノハ官房ニ於テ淨書校合シ成ヘク其日ノ中ニ發付スヘシ但文書ニ附屬ノ表圖又別紙別冊アルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ官房ニ送付スヘシ發付スヘキ本書計算書類ナルトキ亦同シ

第二十一條 改正

省令達訓令告示案其他大臣次官決裁濟ノ文書閱覽濟ノ文書ニシテ官房ニ於テ編纂保存スヘキモノハ官房記録庫ニ收藏シ主務局主務課ヲシテ編纂保存セシムルモノハ主務課ニ收藏セシム

結局ニ於テ局長又ハ主務ノ處分ニ歸スルモノト雖モ大臣次官ノ捺印アルモノハ前項ニ同シ

官房ニ於テ編纂保存スヘキ書類ノ種目ハ別ニ定ム

第二十二條 改正

左ノ書類ハ局辰ノ印ヲ捺シテ官房ニ送付スヘシ官房ニ於テハ決裁領送受票ヲ以テ主務局主務課ニ送付スヘシ

一、決裁ヲ受クルノ後指令内閣ノ指令ノ回答上答ヲ得テ後更ニ成案ヲ附シ決裁ヲ受

クヘキモノ

二、法律勅令閣令ノ發付ニ依リ結了スヘキモノ

三、主務局主務課ニ於テ編纂保存スヘキモノ

四、官房ニ於テ編纂保存スヘキモノト雖モ決裁後主務局主務課ニ於テ原帳簿

ニ照合記入ヲ要スルモノ

第二類ノ文書ハ法律勅令閣令ノ發付後送受票ヲ以テ記録庫ニ送付スヘシ
第四類ノ文書ハ主務課ニ於テ用濟ノ後送受票ヲ以テ記録庫ニ送付スヘシ

●海軍參謀本部條例

明治二十二年三月
勅令第三十號

朕海軍參謀本部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍參謀本部條例

- 第一條 海軍大臣ハ各省官制ニ掲クルモノ、外帷幕ノ機務ニ參シ出師作戰海防ノ計畫ニ任スルモノトス
- 第二條 海軍大臣ノ下ニ海軍參謀部ヲ置キ軍事ノ計畫ヲ掌ラシム
- 第三條 海軍參謀部ニ長一人ヲ置キ將官ヲ以テ之ニ補シ部務ヲ總理セシム
- 第四條 海軍參謀部ニ第一課第二課第三課ヲ置キ部務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
 - 第一課 作戰出師準備海上運輸ノ計畫
 - 第二課 海岸防禦
 - 第三課 諜報
- 第五條 課長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ第一課第三課ニ課員四人ヲ置キ一人ハ少佐三人ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ第二課ニ課員三人ヲ置キ一人ハ少佐二人ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 部長ハ臨時甲課員ニ乙課ノ事務ヲ兼務セシムルコトヲ得
- 第七條 海軍參謀部ニ大臣傳令使部長傳令使各一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣部長ニ專屬セシメ又部長ノ命ヲ受ケ課務ヲ助ケシム

第八條 此條例ニ掲クルモノ、外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

●海軍參謀部條例中改正追加

明治二十三年十月 勅令第二百四十號

- 朕海軍參謀部條例中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 海軍參謀部條例第八條ヲ左ノ如ク改正シ第九條以下ヲ左ノ如ク追加ス
- 第八條 公使館附將校ハ海軍參謀部ヲシテ管轄セシム
- 第九條 海軍參謀部ニ出仕將校ヲ置キ臨時ノ事務ニ從事セシム
- 第十條 海軍參謀部ニ編修編修書記ヲ置キ第三課ニ屬セシム
- 第十一條 海軍參謀部ニ船匠師兵曹技手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ從事セシム
- 第十二條 海軍參謀部ノ定員ハ左ノ如シ

部長 將官		部長 官房		海軍大臣傳令使		大尉		編修	
第一	第二	第一	第二	課長	課員	大尉	少佐	船匠師	兵曹
一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
課	課	課長	課員	大尉	少佐	大尉	少佐	技手	一

第三課	課長	大佐	一
課員	少佐	大尉	三一
公使館附將校	佐官或ハ大尉		八
出仕將校	佐官或ハ大尉		十三
	編修書記		九
			二

●海軍造兵廠處務細則

明治二十二年十月
海軍省達第四百二十五條

海軍造兵廠處務細則左ノ通定ム

造兵廠處務細則

第一章 職務及權限

- 第一條 廠長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外先任科長其事務ヲ代理スヘシ
- 第二條 廠長ハ此細則ニ掲グル各科課所掌事項外ニシテ臨時調査ヲ要スル事項アルトキ臨時廠員ニ委員ヲ命シ其事ニ從ハシムルコトヲ得
- 第三條 先任科長廠長ノ事務ヲ代理スルトキハ其指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理スヘシ而シテ上申同等ハ廠長ノ名ヲ以テ發付スヘシ
- 第四條 製造科長造修ニ附セラレタル兵器中購入スヘキモノト認定シタルモノアル

- トキハ意見ヲ廠長ニ詳述スヘシ
- 第五條 製造科長機械器具ノ製造ヲ要スルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 製造科長工業繁劇ノ際工場ノ早出居殘夜業等ヲ爲セシメントスルトキハ事由ヲ記載シ廠長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 製造科長検査科長兵器ノ制式圖ヲ制定シ或ハ之ヲ改正スル意見アルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 製造科長検査科長ハ特撰工ヲ除クノ外工業ノ繁簡ヲ計リ定員内ノ職工ヲ備入解僱スルコトヲ得
- 第九條 製造科長検査科長諸職工ヲ工場外ニ使役スルヲ要スルトキハ廠長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十條 會計課長ハ臨時人夫船車ヲ備入スルコトヲ得但シ前月使用分ヲ翌月十五日マテニ廠長ニ報告スヘシ
- 第十一條 科課長ハ各其屬員以下ニ掛テ命スルコトヲ得
- 第十二條 科課長他科課ノ屬員及器具物品等ヲ要スルトキハ其科課長ニ協議シテ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十三條 科課長其科課員ノ公務出張ヲ要スルニ二十里以内ナルトキハ口頭ヲ以テ

其事由ヲ述ヘ官職姓名出張先ヲ記シタル紙上ニ廠長ノ檢印ヲ受クヘシ二十里以外ナルトキハ事由ヲモ記入シ廠長ニ出スヘシ又用濟歸廳ノ節ハ官職姓名歸著ノ日限ヲ記シ會計課ヲ經テ廠長ニ届出ヘシ

第十四條 科課長車船人夫ヲ使用スルヲ要スルトキハ之ヲ會計課長ニ請求スヘシ

第十五條 各科課ノ屬員ハ其長ノ命ヲ受ケ業務ニ服シ其長事故アルトキハ先任ノ者之ヲ代理ヲ爲スヘシ

第十六條 製造科ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、諸兵器及其屬具ヲ製造修理スル事

二、新設兵器ノ制式圖及圖彙竝ニ説明書ヲ調製スル事

三、購買ニ付スル兵器ノ圖面又ハ製造方法書等ヲ調製スル事

四、新造艦船要スル兵器ノ構造重量等ヲ調査報告スル事

五、前諸項ニ關スル兵器又屬具ノ圖案竝ニ概算書豫算書等ヲ調製スル事

第十七條 製造科ニ工務係製圖係及各工場ヲ置キ科務ヲ分掌セシム

第十八條 工務係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、科務ニ係ル文書取扱及人員調査ノ事

二、科中一般ノ物品及圖書類ヲ管守保存スル事

三、造修兵器物品ノ首尾顛末ヲ監査シ其授受送附等ヲ處理スル事

四、工業ノ繁簡ニ注意シ間斷ナク造修品ヲ各工場ニ配賦スル事

五、本科ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事

六、前各項ノ外總テ科中ノ庶務ヲ整理スル事

第十九條 製圖係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、造修ニ係ル兵器ノ製圖ヲ調製スル事

二、制式圖管守出納ノ事

第二十條 工場ハ左ノ如シ

第一工場 集成工 鑄工 木工 機工

第二工場 鑄工 木工 革工

第三工場 製鋼 鍛工 銃工 製鐵

第四工場 鍛工 銃工 製鐵 鋼工

第五工場 藥莖 火工

第二十一條 工場ニ工場長ヲ置キ工事繁劇ノ工場ニハ其下ニ工場掛ヲ置ク

第二十二條 工場長ハ主任主幹ノ指示ヲ受ケ各擔當ノ工業ニ從事シ工場一切ノ整理

ヲ爲ス

- 第二十三條 工場長ハ造修兵器物品ノ顛末ヲ明ニシ其費用ヲ調査ス
- 第二十四條 工場長ハ造修ニ供用スル材料ノ品質良否ヲ監査ス
- 第二十五條 工場長ハ工場備付ノ機械器具ヲ管守シ其出納保存ヲ掌ル
- 第二十六條 工場長ハ常ニ工業ノ便否ヲ考察シ専ラ事業ノ進歩ヲ謀ルヘシ
- 第二十七條 工場長ハ常ニ職工ヲ監視スヘシ
- 第二十八條 工場長工業ノ難易ニ由リ制式ヲ改正スルノ意見アルトキハ之ヲ主幹ニ申出ヘシ
- 第二十九條 工場長職工ヲ新ニ僱役セントスルトキハ其技藝ノ如何ヲ試験シ採否給料等ノ意見ヲ主幹ニ詳述スヘシ
- 第三十條 工場長職工ノ給料ヲ増減セントスルトキハ其事由ヲ詳記シ各工場長商議上主幹ニ申出ヘシ
- 第三十一條 工場掛ハ工場長ヲ補助シ其各工場一切ノ事業ニ服従ス
- 第三十二條 検査科ニ點檢係整理係及ヒ化學的試験室係ヲ置キ科務ニ分掌セシム
- 第三十三條 點檢係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
 - 一、兵器ノ良否ヲ基範又ハ検査器ニ據リ検査スル事

- 二、兵器ノ試験ヲ成規ニ照シ或ハ臨時方法ヲ設ケ施行スル事
 - 三、兵器ノ保存期限ヲ査定スル事
 - 四、兵器ノ検査及試験ノ成績ヲ調査報告スル事
 - 五、射的表及放發年報ヲ調製スル事
 - 六、返納又ハ貯蓄兵器ヲ處理スル事
 - 七、兵器検査用機械器具ノ保存期限ヲ査定スル事
 - 八、兵器定檢用機械具並ニ試験用兵器基範及材料物品ヲ保管スル事
- 第三十四條 整理係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、兵器ノ検査及試験方法ノ調査並ニ検査器ノ制度ヲ按シ其用法等ヲ定ムル事
 - 二、兵器圖案ヲ調査スル事
 - 三、改造修理ノ兵器ヲ査定シ造修ノ手順ヲ爲ス事
 - 四、兵器ノ保存方法ヲ設ケル事
 - 五、兵器制度ノ記事及兵器處分ニ係ル報告ヲ調製スル事
 - 六、廠内計畫ニ係ル兵器試験費並ニ豫算額ヲ調理スル事
 - 七、科内備品及圖書類ヲ保管スル事
 - 八、兵器檢定用機械器具並ニ試験用兵器及材料物品等ノ價額ヲ調査シ且其出納

ヲ整理スル事

九、本科ニ係ル文書及ヒ記事等ヲ處理スル事
十、本科ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事

第三十五條 化學的試驗室係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

- 一、兵器ノ原質及其他諸材料ノ分析ヲ爲ス事
- 二、諸分析品ノ顛末ヲ明ニシ之ヲ報告スル事
- 三、本室ニ要スル諸費ノ調理及其機械器具並ニ材料等ノ出納保存ヲ爲ス事
- 四、本室ニ使役スル工夫職工ノ勉否ヲ監視スル事

第三十六條 化學的試驗室係ハ附屬職工ヲ備入解備シ及其賃錢ヲ増減セントスルト

キハ事由ヲ記載シ科長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十七條 會計課ニ計理係用度係ヲ置キ課務ヲ分掌セシム

第三十八條 計理係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

- 一、金錢ノ收支及豫算決算並ニ本廠會計ニ係ル報告統計又ハ財産等ニ關スル事務ヲ處理スル事
- 二、諸造修兵器物品ノ現費並ニ兵器彈藥及水雷費ニ關スル統計正算等ヲ調理スル事

三、工夫及ヒ職工人夫ノ出務ヲ調査シ其人員及給頓ヲ統計整理スル事

四、各工場ノ記簿ヲ管シ之カ整理ヲ爲ス事

五、本課ニ係ル文書其他記事等ヲ處理スル事

六、本課ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事

第三十九條 用度係ノ所掌事務ハ左ノ如シ

一、俸給日給加俸増働料旅費應費賄料郵便稅電信料人力車賃等算出給與ノ事

二、職工人夫等ノ賃錢ヲ調査シ之ヲ給與スル事

三、兵器及材料物品ノ購買及不用品賣却或ハ舟車人夫ノ備役ニ係ル事件ヲ處理スル事

ナル事

四、營繕ノ事

五、使丁給仕支配ノ事

第四十條 材料課ニ收支係貯蓄係ヲ置キ其課務ヲ分掌セシム

第四十一條 收支係ノ所掌事項ハ左ノ如シ

- 一、兵器造修ノ材料及機械器具並ニ應中物品ノ收支ヲ整理スル事
- 二、材料物品ノ豫算並ニ統計報告ヲ調製スル事
- 三、不用物品及無代價受込品ヲ規程ニ照シ處理スル事

- 四、本課ニ係ル文書其他記事等ヲ處理スル事
 - 五、本課ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
- 第四十二條 貯蓄係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、貯蓄材料物品ノ保管及各庫開閉ノ事
 - 二、貯蓄材料物品ヲ點檢査閱スル事
 - 三、製造豫算ニ基キ材料物品ノ準備ヲ爲ス事
- 第四十三條 倉庫課ニ蓄藏係出納係ヲ置キ其課務ヲ分掌セシム
- 第四十四條 蓄藏係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、貯藏兵器ノ管守及各庫開閉ノ事
 - 二、貯藏諸兵器ノ淨拭改塗其他保存ニ注意スル事
 - 三、交付兵器ノ重量ヲ調査スル事
 - 四、試験用及彈藥用ノ火藥ヲ保管スル事
- 第四十五條 出納係ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、諸兵器ノ出納及運搬ニ係ル事件ヲ管理スル事
 - 二、各兵器交付票ヲ調整スル事
 - 三、器械及兵器手入用備品ヲ管理スル事

- 四、毎年四月現在ノ兵器ヲ元簿ニ照シ調査スル事
 - 五、本課ニ係ル文書及諸報告其他記事等ヲ處理スル事
 - 六、本課ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
- 第四十六條 本廠勤務軍醫ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、廠内衛生ニ關スル事項
 - 二、公務負傷或ハ急患者ノ診察治療ヲ爲シ廠長ノ命アルトキハ病氣引入ノ下士卒ヲ往診スル事
 - 三、室内備付品並ニ藥品療用品等ヲ管守保存スル事
 - 四、看護手看病夫ヲ指揮シ其勉否ヲ監視スル事
- 第四十七條 廠長專屬員ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、本廠及廠長名ヲ以テスル文書ヲ接受發付シ又ハ各科課等關係ノ向ヘ配付スル事
 - 二、廠長ノ命ニ係ル文案ヲ起草スル事
 - 三、秘密文書ノ取扱ヲ爲ス事
 - 四、官印ヲ監守スル事
 - 五、各科課ノ諸報告ヲ整理スル事

- 六、 廠員ニ宿直ノ順次ヲ通知シ其度數ヲ調査シ會計課ニ報告スル事
- 七、 他ノ主管ニ屬セサル事務ノ取扱ヲ爲ス事
- 八、 科課ニ屬セサル書類ヲ保管スル事
- 九、 廠員ノ名簿履歷簿ヲ調査整頓スル事

第四十八條 監護長ノ所掌事項ハ左ノ如シ

- 一、 廠内取締ニ關スル事項
- 二、 監護支配ノ事
- 三、 諸鑑札及諸切符保管授受ノ事

第四十九條 廠内ニ宿直ヲ置キ判任官一名ヲシテ交番勤務セシムヘシ但新ニ勤務ヲ命セラレタル者ハ拜命ノ日ヨリ二週間ヲ經テ宿直ニ充ツヘシ

第五十條 宿直員ハ臨時ノ事故アリ其事重大ト認ムルトキハ廠長ニ稟中シ指揮ヲ受クヘシ其事輕少ナリト認ムルトキハ其管掌スル所ノ官員ニ報知シ之ヲ助ケ其事務ヲ調理スヘシ

第二章 文書取扱

第五十一條 廠長名若クハ廠名ニテ本廠ニ到來スル文書ハ凡テ專屬員ニ於テ受領シ其件名ヲ簿冊ニ登載シ番號ヲ記シテ廠長ノ閱覽ニ供シ廠長親展ノモノハ直ニ廠長

ニ呈スヘシ

第五十二條 廠長ハ文書ヲ閱覽シ其主務ノ科課指示ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ回致セシメ事ノ至急ヲ要スルモノハ特ニ急印ヲ捺スヘシ

第五十三條 科課長ハ廠長ヨリ回致セラレタル文書ヲ審査シ其處辨ヲ要スルモノハ受領ノ日直ニ施行ノ手續ヲ爲シ處辨ヲ要セサルモノハ之ヲ保管シ其旨ヲ專屬員ニ通知スヘシ但處辨ヲ要スルモノニシテ直ニ施行シ難キモノハ豫メ日限ヲ定メ文案ヲ起草シ廠長ニ呈出スヘシ調査上多分ノ日數ヲ要スルモノハ其事由ヲ特ニ開申シ置クヘシ又急印アルモノニ對シテハ速ニ處辨スヘシ

第五十四條 事ノ聯帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立按シ關係科課長ト協議ノ上連印シテ之ヲ出スヘシ協議ハ主務者ニ於テ面談諮議スルヲ要ス若シ彼是意見合ハサルトキハ直ニ廠長而陳シテ決裁ヲ乞フ可シ

第五十五條 科課長ハ關係ノ科課ニ回付ノ文書ヲ查シ若シ澁帶スルモノアルトキハ之ヲ督促シ時日ヲ經過セサルヲ勉ムヘシ

第五十六條 專屬員ハ科課ニ回致セル文書ニ對スル處辨ノ日數ヲ計査シ若シ日限ヲ經過スルモ廠長ニ呈出セサルモノアルトキハ其件名及科課名ヲ廠長ニ開申スヘシ

第五十七條 科課ヨリ出シタル文案ハ廠長閱覽シ異議ナキトキハ之ニ檢印シ其科課

ニ下シテ淨書セシメ而シテ專屬員ヲシテ之ヲ發送セシムヘシ但廠名ニテ到來スル
 文書ト雖モ事ノ輕易ニシテ廠長ノ決裁ヲ要セサルモノハ其科課限處分スルヲ得
 第五十八條 大臣ノ決裁及指令ヲ經タル文書及令達等ハ廠長閱覽後專屬員ヲシテ主
 務ノ科課ニ回致セシメ其關係一科課ニ止マラサルモノハ主務ノ科課ヨリ之ヲ回覽
 セシムヘシ

第五十九條 科課ノ回覽ヲ要スル文書ハ廠長科課回覽ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ
 發セシムヘシ科課ハ回覽ノ後其證トシテ科課長捺印シ回尾ヨリ專屬員ニ還付スヘ
 シ

第三章 雜則

第六十條 本廠官吏ニアラサル者制服ヲ著セル准
 官以上ヲ除ク物品ヲ廠外ヘ携出セントスルトキ
 官品ナルトキハ主務者ヨリ私物ナルトキハ其科課等ノ先任者ヨリ通門證ヲ授與ス
 ヘシ

第六十一條 廠内各工場及試檢室ハ廠長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ本廠掛官員ノ外
 入ルヲ許サス

●海軍造兵廠官制改正

明治二十三年八月
勅令第百六十八號

朕海軍造兵廠官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵廠官制

第一條 海軍造兵廠ハ兵器火藥及爆裂藥ノ製造改造修理購買ヲ掌ル所トス
 第二條 海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長	一人	大佐
造兵科長	一人	大技監
造兵科主幹	五人	技監或ハ技士
製藥科長	一人	少佐或ハ技監
製藥科主幹	二人	技監或ハ技士
檢査科長	一人	少佐
檢査科主幹	四人	大尉或ハ技士
會計課長	一人	主計少監
倉庫主管	一人	大尉
材料主管	一人	大主計
上等兵曹	二人	
技手	三十六人	上等技工工ヲ混 用スルコトヲ得

屬 三十一人

- 第三條 廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ廠務ヲ總理ス
- 第四條 造兵科ニ於テハ兵器ヲ製造修理シ及其圖案入費概算書ヲ作ルコトヲ掌ル
- 第五條 製藥科ニ於テハ火藥及爆裂藥ヲ製造シ及其入費概算書ヲ作ルコトヲ掌ル
- 第六條 検査科ニ於テハ兵器火藥及爆裂藥ノ検査試験ノ事ヲ掌ル
- 第七條 會計課ニ於テハ金錢ノ收支材料物品ノ購買賣却及火藥拂下ニ關スルコトヲ掌ル
- 第八條 倉庫主管ハ兵器火藥及爆裂藥ノ保管及其輸送ニ關スルコトヲ掌ル
- 第九條 材料主管ハ材料物品ヲ出納保管スルコトヲ掌ル
- 第十條 科長課長主管ハ廠長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ整理ス
- 第十一條 主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ科務ヲ分掌ス
- 第十二條 上等兵曹ハ検査科ニ屬シ検査ニ係ル事ヲ掌ル
- 第十三條 技手ハ造兵科製藥科検査科ニ分屬シ技術ニ係ル事ヲ掌ル
- 第十四條 屬ハ科長課長主管ニ分屬シテ書記計算ノ事ニ從ヒ又廠長ノ命スル特務ニ服ス
- 第十五條 第二條ニ掲ケル職員ノ外軍醫三人看護手一人看病夫二人ヲ置ク

● 造船造兵監督官條例

明治二十三年十月 勅令第二百四十八號

朕造船兵監督官條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造船造兵監督官條例

- 第一條 造船監督官造兵監督官ハ造船部造兵廠外ニ委托シタルモノアルトキ之ヲ命シ造船造兵ヲ監督セシムルモノトス
- 第二條 造船監督官造兵監督官ハ海軍省第二局長ノ指揮監督ヲ受ク
- 第三條 造船監督官造兵監督官ハ左ノ定限ヲ超ユルコトヲ得ス

	大	佐	少	佐	大	技	監	少	技	監	大	技	士	大	主	計
造船監督官	一						二			二			二			一
造兵監督官		一		二												

造船監督官造兵監督官ハ彼此兼務セシムルトキ或ハ在職ノ者ヲ以テ兼務セシムルトキ兼務ノ人員ハ本表ノ定數ニ超過スルモ妨ケナシ

● 海軍中央文庫官制

明治二十二年四月 勅令第五十五號

朕海軍中央文庫官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍中央文庫官制

第一條 海軍中央文庫ハ海軍參謀部ニ屬シ海軍ニ必要ナル圖書ヲ蒐集保存スル所トス

第二條 海軍中央文庫ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一人 大尉

第三條 海軍中央文庫主管ハ圖書ノ蒐集保存分類整頓其他一切ノ事ヲ掌理ス

第四條 本職アル士官士官相當官及技師主理教授ノ内若干人ヲ海軍中央文庫掛トシ

各科ノ圖書類別存廢ノ事ニ於テ主管ヲ補助セシム

第五條 海軍中央文庫ニ主管ノ外判任官若干人ヲ置ク

●唐津石炭用所官制

明治十九年六月 海軍省令第四十三號

明治十六年二月丙第十六號達唐津石炭用所章程ヲ廢シ同所官制左ノ通り定ム

唐津石炭用所官制

第一條 唐津石炭用所ハ横須賀鎮守府ノ管理ニ屬シ海軍所屬ノ石炭山ヲ管シ作業費ヲ以テ石炭ヲ採掘シ之ヲ運輸スル所トス

●海軍中央文庫官制第五條改正
勅令第二百三十四號
海軍中央文庫官制第五條改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布シム
正ス
第五條 海軍中央文庫ニ屬シ二人ヲ置キ主管ノ命ヲ受ケテ文庫ノ事務ニ從事セシム

第二條 唐津石炭用所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

一人 奏任三等或四等ノ機關官主計官

屬員

三人 屬

第三條 所長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理ス

第四條 屬員ハ所長ノ命ヲ承ケ左ノ事項ヲ分擔ス

一 炭山ノ測量、採掘方ノ監視、炭質代價及ヒ其納拂ノ調査、炭庫ノ管守、運送船炭

山稼人ノ支配及所内ノ營繕

二 作業費及收入金ノ出納整理豫算決算及需用物品ノ買辦供給

三 諸公文ノ取扱、用使給仕小使ノ支配及所中ノ雜務

●新原採炭所官制

明治二十三年三月 勅令第四十號

朕新原採炭所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新原採炭所官制

第一條 新原採炭所ハ海軍豫備炭山ヲ管轄シ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條 新原採炭所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 機關少監或ハ大機關士

屬 二人
技手 一人

第三條 所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ整理ス
第四條 屬技手ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

●海軍編修官官制

明治二十三年六月
勅令第九十號

朕海軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍編修官官制

第一條 海軍ニ於テ戰史外國政誌及水路誌ノ編修ニ從事セシムル爲メ海軍編修官ヲ置ク

第二條 海軍編修官ハ海軍參謀部長及水路部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 海軍編修官ヲ分テ海軍編修及海軍編修書記トス

第四條 海軍編修ハ奏任四等以下トシ海軍編修書記ハ判任トス

第五條 海軍編修官ノ定員ハ左ノ如

編修 二人
編修書記 十一人

●水路部條例

中改正 明治二十二年三月
勅令第四十九號

朕水路部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十一年六月
勅令第四十九號

●海軍水路部條例

明治二十一年六月
勅令第四十九號

朕海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例

第一條 水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海圖ヲ調製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌測器ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス

第二條 水路部ニ測量科圖誌科測器科計算課ヲ置ク

第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長	大佐	一人
測量科長	佐官	一人
圖誌科長	少佐	一人
測量班長	少佐	三人
測器科長	大尉或ハ大技士	一人
圖誌科僚	大尉	二人
測量士	尉官或ハ技士	九人
測量助手	上等技工	若干人

計算課長

屬

一人

製圖手

技手

若干人

第四條 部長ハ海軍參謀本部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス

第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得

第六條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 各班ヲ部署シ測量教令ヲ下ラス事

二 各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項

三 各班水路記事ノ調査ニ關スル事項

四 測量經費豫算ニ關スル事項

五 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス

第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量軍業ヲ主幹シ測量原圖ヲ調整シ其

水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス

第九條 測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス

第十條 測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹ヲラシムルコトアル可シ

第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シ班長ノ命ヲ承ケテ測量士ヲ助シ

第十二條 圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整刊行スル事

二 水路誌燈臺表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ翻譯シテ刊行スル事

三 水路告示ヲ案起スル事

四 内外諸圖書ヲ調査シ及圖誌ヲ増補又ハ改正スル事

五 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事項

六 圖誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事

七 外國ト圖誌ヲ交換スル事

八 圖誌ヲ保管スル事

九 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項

十 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

第十三條 圖誌科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ圖誌ニ關スル事業ヲ分掌ス

第十四條 製圖手ハ科僚ニ屬シテ其業ニ服ス

第十五條 測器科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 測器ノ購買準備ニ關スル事項
- 二 測器ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊測器ヲ交換スル事
- 三 艦船營ニ備フル測器ノ定數ニ關スル事項
- 四 測器ヲ修理製造スル事
- 五 測器ノ經費豫算ニ關スル事項
- 六 測器ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

- 第十六條 計算課長ハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項
 - 二 經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
 - 三 水路部内ノ庶務及物品ノ保管ニ關スル事項
- 第十七條 第三條ニ掲グル職員ノ外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

●水路部條例中改正追加

明治二十三年十月 勅令第二百四十一號

朕水路部條例中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例第十七條ヲ改正シ第十八條第十九條ヲ加フルコト左ノ如シ

第十七條 水路部ニ編修編修書記ヲ置キ圖誌科ニ屬セシム

第十八條 水路部ニ上等技工技工手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ從事セシム

第十九條 水路部ノ定員ハ左ノ如シ

部長 大佐		測量科	班長	科長	佐官	一	上等技工	九
		測量科	尉官	少佐	技士	三	技工	六
圖誌科	科長	少佐	技士	編修	課長	一	技工	九
						二	編修書記	二
計	算	課	課長	編修	課長	一	編修書記	二

●水路部處細則 明治二十三年七月 海軍省達第二百五拾五號

水路部處務細則左ノ通改正ス

水路部處務細則

代理及分課

第一條 水路部長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外先任佐官共事務ヲ代理スヘシ

- 第二條 先任佐官部長ノ事務ヲ代理スルトキハ其指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理スヘシ而シテ上申伺水路告示及各國水路部へ通信等ハ部長ノ名ヲ以テ發付スヘシ
- 第三條 測量科長出張其他事故アリテ數十日間不在ノトキハ班長班長在ラサルトキハ測量士ヲシテ其主務ヲ代理セシムヘシ但班長測量士悉ク不在ノトキハ部長ノ見込ヲ以テ部内ノ將校ヲシテ代辨セシムルコトヲ得
- 第四條 圖誌科長事故アリテ數十日間不在ノトキハ該科僚ヲシテ代理セシムヘシ
- 第五條 海軍編修ハ圖誌科長ノ指揮ヲ受ケ編誌ノ事業ヲ掌ル
- 第六條 部長專屬員ハ部長又ハ部ノ名ヲ以テスル文書ノ接受發送ヲ掌リ又部長ノ命スル事務ニ服ス
- 第七條 各科課屬員ハ各上官ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ服ス
- 第八條 海軍編修書記ハ海軍編修ノ指揮ヲ受ケ其事業ニ服ス
- 第九條 測量科勤務ノ少技士候補生ハ各班ニ分屬シテ測量士ノ事業ヲ助ク
- 第十條 測量科ノ下士ハ各班長ニ分屬シ屬ハ科長ニ屬ス
- 第十一條 測量科ノ技手ハ電信經度測量ヲ助務シ及測器ノ保存ヲ掌ル
- 第十二條 測量科器械手ノ執務時間ハ第十九條ニ同シ

- 第十三條 圖誌科ニ左ノ一官四掛ヲ置ク
 - 一 編修官
 - 二 圖書掛
 - 三 製圖掛
 - 四 彫刻掛
 - 五 印刷掛
- 第十四條 海軍編修官ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 條例第十二條ノ第二第三項及第四項ノ誌類改補
 - 二 内外國ヨリ送附セル水路雜誌ヲ校正刊行スル事
- 第十五條 圖書掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 條例第十二條ノ第五以下第十二ニ至ル各事項
 - 二 圖書ノ目錄調製及銅版石版ノ保存
 - 三 諸物品受拂
- 第十六條 製圖掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 條例第十二條ノ第一項
 - 二 淨寫

- 三 補寫
- 四 編畫
- 五 寫真
- 第十七條 彫刻掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 經畫方線
 - 二 海岸線
 - 三 錘測字
 - 四 和洋文字
 - 五 砂點布點
 - 六 山脈
 - 七 石版刻寫
- 第十八條 印刷掛ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 銅版印刷
 - 二 石版印刷
 - 三 鍍版
 - 四 表裝

- 第十九條 製圖彫刻印刷掛ノ執業時間ハ一般ノ執務時間ニ一時間ヲ增加ス
- 第二十條 條例第十二條ノ第四項ハ科長科僚之ヲ施行ス
- 第二十一條 科僚ハ左ノ事ヲ掌ル
 - 一 條例第十二條ノ第一項
 - 二 條例第十二條第四項ニ據リ内外諸圖書ヲ調査シ及海圖ニ大改正或ハ小改正ヲ加フル事
 - 三 製圖及彫刻掛ヲ指揮シテ其事業ニ服セシムル事
- 第二十二條 科僚ハ第二十一條ニ掲ケル外科中一切ノ事務ヲ主査ス
- 第二十三條 圖書掛ハ屬製圖掛ハ製圖手彫刻掛ハ海圖彫刻手印刷掛ハ海圖印刷工ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二十四條 彫刻掛ハ其上席ノ者ヲ以テ該掛長トス
- 第二十五條 圖書掛ハ科長及科僚ノ命ヲ受ケ其事務ニ服ス
- 第二十六條 製圖掛ハ科僚ノ指揮ヲ受ケテ其事業ニ服ス
- 第二十七條 上席製圖手ハ科僚ノ命ヲ受ケテ印刷掛ヲ支配ス
- 第二十八條 印刷掛ハ上席製圖手ノ命ヲ受ケテ其業務ニ服ス
- 第二十九條 計算課ニハ掛ヲ置カス左ノ事項ヲ分擔セシム

- 一 歳入歳出ノ豫算ヲ編製シ給與納拂ノ當否ヲ查閱シ及決算書ヲ調理スル事
 - 二 收支ノ傳票ヲ調製シ支拂命令及告知書等ヲ發行スル事
 - 三 收支ニ係ル諸報告書ヲ調製シ及該諸帳簿ヲ整理スル事
 - 四 郵便信料等ノ受拂ヲ爲ス事
 - 五 部内ノ財産ヲ調査シ該報告ヲ調製スル事
 - 六 物品購買及不用品拂下ケニ關スル事務ヲ整理スル事
 - 七 部内各所修繕及被服給與ニ關スル事
 - 八 經費ニ關スル報告統計整理ノ事
 - 九 物品ニ關スル諸帳簿ノ整理及報告統計ノ事
 - 十 通常物品會計ニ關スル備品消耗品ノ保管及出納ノ事
 - 第三十條 計算課受拂ニ用ユル官印及抵當物ハ課長之ヲ監守ス
 - 第三十一條 監護使丁給仕ハ計算課ニ於テ之ヲ管轄ス
- 文書取扱
- 第三十二條 部長又ハ水路部宛ノ書類ハ專屬員之ヲ受領シ件名簿ニ登記シ部長ノ査閱ニ供スヘシ部長親展書類ハ部長ニ呈シ部長ヨリ下付アルトキハ其意ヲ承ケ之ヲ處理スヘシ

- 第三十三條 部長ハ文書ヲ査閱シ其各科課ノ主務ニ屬セサル者ハ專屬員ニ意ヲ授ケテ之ヲ處理セシメ各主務ニ屬スルモノハ各主務ニ送付ス
- 第三十四條 科課長ハ部長ヨリ下附ノ文書ヲ審查シ其上申照會等ヲ要セサルモノハ處分ノ後結了件簿ヲ以テ五日以内ニ專屬員ニ通知シ其處分ヲ要セサルモノハ處分ノ後結了件簿ヲ以テ五日以内ニ專屬員ニ通知シ其處分ヲ要スルモノハ成ルヘク其日ニ所定ノ野紙ニ各文案ヲ附シ之ヲ部長ニ出スヘシ其即時處辨シ難キモノハ其由ヲ附箋シ檢印ノ後部長ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第三十五條 各主務ニ於テ領受セル文書中主務外ト認ムルモノアルトキハ其主務ト認ムル者ニ面議スヘシ議合ハサルトキハ部長ニ決裁ヲ請フヘシ
- 第三十六條 事ノ連帶ニ涉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立案シ連帶科課回付ノ年月日ヲ記シ之ヲ連帶科課ニ送付シ同科課ニ於テハ主務長檢印ノ後之ヲ部長ニ出スヘシ
- 第三十七條 各科課ヨリ差出ス文書ハ各主務ニ於テ淨書シ專屬員ヘ送付スヘシ專屬員ハ之ニ番號ヲ附シ件名ヲ簿冊ニ登記シ成ルヘク其日ノ内ニ發送シ其原案ニ番號及發送月日ヲ記入シ各主務科課ニ返付スヘシ
- 第三十八條 諸文書ノ保存ハ各其主務ニ於テ保管スヘシ但別ニ成規アルモノハ此限ニ非ス

第三十九條 處務參照ノ爲メ各主務ニ於テ保存スル文書ノ類ヲ閱覽セントスルトキハ其室ニ就テ之ヲ見ルヘシ若シ各主務長必要ニ依リ他室ニ攜帶スルトキハ必ス其日ノ中ニ返付スヘシ

第四十條 文書ヲ受授スルニハ主務者攜帶スルモノ、外ハ第三十三條第三十四條第三十六條第三十七條ノ場合ニ限り送受票ヲ用ユヘシ

●艦隊條例

明治二十二年七月 勅令第百號

朕艦隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

艦隊條例

第一條 艦隊ハ軍艦三艘以上ヲ以テ編制ス

第二條 艦隊ハ常置シ又ハ臨時編制ス艦隊ノ名稱ハ編制ノ目的又ハ差遣スル所ノ海洋若クハ地方ノ名ヲ冠シ其艦隊ト稱ス

第三條 艦隊ニ司令長官ヲ置キ其勢力ニ應シ大將中將若クハ少將ヲ以テ之レニ補ス

第四條 大將若クハ中將ノ司令スル艦隊艦數多キトキハ其下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

第五條 艦隊司令長官司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

大將司令長官 少將若クハ大佐	參謀長	參謀	司令長官	傳令司	秘書
中將司令長官 少將司令長官 少將若クハ大佐	少佐	大尉	大尉	大尉	主計少監 大主計
司令官ノ幕僚	大尉	大尉	大尉	大尉	大主計

艦隊外國ニ航スルトキ時宜ニ依リ譯官トシテ奏任官又ハ判任官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第六條 艦隊司令長官ハ 天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ 奏上ス可シ

第八條 艦隊司令長官ハ沿海ノ地方長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告ス可シ若シ其事急激危險ニシテ地方長官ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條 艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ分遣スルトキハ部下司令官若クハ先任艦長ヲシテ其指揮ヲ掌トシメ其職權内ノ事ヲ委任スルコトヲ得

- 第十條 艦隊司令長官ハ部下職員事故アルトキ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第十一條 艦隊司令官ハ司令長官麾下ノ軍艦ヲ分轄シ之レヲ訓練シ軍備ヲ整頓ス
- 第十二條 艦隊司令長官司令官ハ部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲ケ之ヲ旗艦ト稱ス
- 第十三條 艦隊司令長官司令官ハ旗艦ノ艦長機關長軍醫長主計長ヲシテ其機務ニ參與セシムルコトヲ得
- 第十四條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其機務ニ參シ參謀傳令使秘書ヲ指揮監督シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス
- 第十五條 參謀長アラサル艦隊ノ參謀ハ司令長官ノ機務ニ參シ傳令使秘書ヲ指揮監督シ軍事ニ係ル諸件ヲ整理ス
- 第十六條 參謀長アル艦隊ノ參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ軍事ニ係ル諸件ヲ分擔ス
- 第十七條 司令長官司令官傳令使ハ常ニ司令長官ニ隨從シ命令傳達及信號施行ヲ掌トリ臨時司令長官司令官若クハ參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ秘書ノ事務ヲ助シ
- 第十八條 秘書ハ艦隊ノ庶務ヲ整理ス

●軍艦條例

明治二十二年七月 勅令第九十九號

朕軍艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍艦條例

- 第一條 軍艦ハ鎮守府ヲ本管トス
- 第二條 軍艦艦隊ニ編入中ハ艦隊司令長官ニ屬スト雖モ其本管ヲ變セス艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解隊シタルトキハ別ニ命令ナクシテ其本艦ニ歸スルモノトス
- 第三條 軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ警備練習測量其他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱ス
- 第四條 軍艦戰闘航海ノ準備整頓シ役務ノ命ヲ待ツトキハ之ヲ豫備艦ト稱ス
- 第五條 軍艦製造艤裝修理中ニ在ルトキ又ハ戰闘航海ノ準備整ハサルトキハ之ヲ非役艦ト稱ス
- 第六條 軍艦ノ定員ハ上長官士官準士官下士及卒ヲ以テ組織ス
- 第七條 軍艦ニハ定員ノ外少尉候補生少主計候補生ヲ乘組マシム
- 第八條 軍艦鎮守府司令官長官又ハ艦隊司令長官司令官ノ旗艦タルトキハ定員ニ下士卒若干員ヲ増加スルコトヲ得
- 第九條 軍艦在役艦タルトキハ定員ヲ充實シ他ノ軍艦ニ屬シタルトキ又ハ豫備艦或ハ非役艦タルトキハ定員中適宜ノ人員ヲ置キ或ハ之ヲ置カサルコトアリ

●軍艦條例第十條中追加

勅令第二百六十
月
明治二十三年十
一
朕軍艦條例中追加
ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム
明治二十二年十月
令第九十九號軍艦
一條第十條左ノ
皇族軍艦ノ職員ニ
補セラルトキハ
本條ニ掲クル職員
ノ外大尉一名ヲ置
クコトアリ

第十條 軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之レニ補ス

長艦 大佐若クハ少佐若クハ大尉

副長 少佐若クハ大尉 少佐若クハ大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス

砲術長 大尉 同上

水雷長 大尉 水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス

航海長 大尉

分隊長 大尉

機關長 機關少監若クハ大機關士

軍醫長 大軍醫

主計長 大主計 艦隊司令官ノ旗艦ニ在テハ軍醫少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ
長艦隊司令官ノ旗艦ニ在テハ主計少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

航海士 少尉

分隊士 少尉 大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス

水雷主機 機關士 水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之レヲ置カス

機關士 大機關士若クハ少機關士

軍醫 大軍醫若クハ少軍醫

主計 大主計若クハ少主計

職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應ジ別ニ之ヲ定ム

練習測量其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトアリ

第十一條 艦長ハ所管長官ニ隸シ乗員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ

一切ノ艦務ヲ統理ス

第十二條 艦長ハ部下職員事故アリ代理者ナキトキ臨時他ノ職員ヲシテ代理セシム

ルコトヲ得

第十三條 副長ハ艦長ヲ補佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持シ一切ノ艦務

ヲ整理ス

第十四條 砲術長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十五條 水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

第十六條 航海長ハ航海及水路嚮導ヲ擔任シ主管ノ器具物品ヲ整頓シ船内貯積ノ方法ヲ監督ス

第十七條 分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ戰闘運用防火其他各部署ノ主務ヲ掌理シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓ス

第十八條 砲術長水雷長航海長分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官ト稱シ其主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

第十九條 機關長ハ機關ヲ整頓シ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ機關部諸員ヲ誘掖訓練ス

練ス

第二十條 軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル

第二十一條 主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第二十二條 航海士ハ航海長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十三條 分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十四條 航海士分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十五條 水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ魚形水雷及電氣燈ニ係ル機關ヲ管理ス

第二十六條 機關士ハ機關長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十七條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十八條 主計ハ主計長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十九條 艦長缺員中ハ副長其職務ヲ執リ艦長事故アルトキハ副長其代理ヲ爲ス又副長ヲ置カサル艦ニ在テ艦長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲ス

第三十條 副長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲シ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將校副長ノ職務ヲ擔任ス

第三十一條 航海長事故アルトキハ航海士其代理ヲ爲シ分隊長事故アルトキハ分隊長其代理ヲ爲シ機關長事故アルトキハ機關士其代理ヲ爲シ軍醫長事故アルトキハ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ主計其代理ヲ爲ス

第三十二條 艦隊附屬ノ軍艦ニ在テハ乗組將校又ハ本艦隊ヨリ臨時乗組タル將校ノ中先任ノ者其艦一切ノ命令ヲ掌トリ艦ノ保安ヲ負擔スルモノトス

●軍艦團隊定員表

明治二十三年十月
勅令第二百三十五號

朕軍艦團隊定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍艦團隊定員表

合	水雷隊(攻撃部)	對馬隊(敷設部)	雷隊(攻撃部)	佐世保隊(敷設部)	雷隊(攻撃部)	吳隊(敷設部)	賀隊(攻撃部)	横須隊(敷設部)	府海兵團	佐世保鎮守府	海兵團	吳鎮守府	府海兵團	横須鎮守府	石川	館山	千珠	滿珠
三三三																		
三三六																		
二五三																		
一七〇																		
二二																		
六八																		
二六																		
三																		
四八																		
三二																		
三																		
四七																		
三四一五二																		
八一六五																		
三三三																		
六三九																		
六一八																		
四四八																		
二四二五二																		
三三三三三																		
二〇八																		
一〇七																		

- 一、上級者ニ缺員アルトキ其次級以下ノ人員ハ其缺員ヲ超過セサル限り定數ヲ超ユルモ妨ナシ
- 二、軍艦條例第九條ニ依リ定員中適宜ノ人員ヲ置キ又ハ之ヲ置カサル軍艦ニシテ其固有ノ定員ニ充ツヘキ人員ハ左ノ如ク處分ス
 - 准士官以上ニハ修學ヲ命シ或ハ臨時ノ須要ニ依リ特別ノ職務ヲ命ス
 - 下士以下ニハ練習生ヲ命シ或ハ海兵團ニ在テ技藝ヲ復習セシム
- 三、練習艦測量艦其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニハ臨時定員ヲ増減スルコトヲ得
- 四、將校分限令ニ依リ休職ニ入りタル士官以上、准士官服役條例ニ依リ休職ニ入りタル准士官、病院ヨリ退院セシ下士卒、逃亡ノ後歸投セシ下士卒、刑期滿限ノ下士卒其他之ニ類スル者ハ豫備艦非役艦ノ補充員ニ充ツヘキモノトス
- 五、不慮ノ災害ニ依リ亡没シタル艦ノ定員ハ准士官以上ハ將校分限令准士官服役條例ニ依リ休職ニ入ラシメ下士卒ハ海兵團ニ入ラシメ新艦ノ定員ニ充ツルコトヲ得

艦隊司令長官及幕僚定員表

明治二十三年十月 勅令第二百三十八號

朕艦隊司令長官及幕僚定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

艦隊司令長官及幕僚定員表

司令長官 <small>中將或ハ少將</small>	參謀	少佐	一
	一 傳令使	大尉	一
	祕書	大主計	一

少將司令長官タルトキハ參謀ハ少佐或ハ大尉ヲ以テ之ニ充ツ

●海軍將官會議條例改正

明治二十二年五月 勅令第七十五號

朕海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍將官會議條例

第一條 海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於テ創設改良スヘキ重要ノ事項ヲ審議シ及海軍高等武官ノ進級候補名簿及進等名簿ヲ議定スル所トス

第二條 海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

第三條 議事ノ事項ニ依リ海軍大臣必要ト思考スルトキハ議員ニアラサル將官機技總監軍醫總監主計總監ヲ以テ臨時議員トスル事ヲ得

第四條 海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス

第五條 議案ハ議長ヨリ下付ス議員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス

●海軍技術會議條例制定

明治二十二年四月 勅令第五十三號

朕海軍兵器會議條例及海軍造船會議條例ヲ廢止シ海軍技術會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

第一條 海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關并ニ砲銃水雷彈藥劇發藥ノ新計畫又ハ新案其他技術上ノ事件ヲ審議スル所トス

第二條 海軍技術會議ノ議長ハ海軍少將ヲ以テ之ニ補シ海軍大臣ニ隸シ會議ノ事務ヲ總理ス

第三條 議長ハ議事ノ事項ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開ク事ヲ得

第四條 海軍技術會議ニ幹事一人副幹事一人ヲ置キ議案ノ調査會議ノ庶務ヲ幹理セシム

●海軍技術會議
 修正 明治二十三年十月
 勅令第二百四十二號
 朕海軍技術會議條例
 例中改正ノ件ヲ裁
 可シ茲ニ之ヲ公布
 セシム
 海軍技術會議條例
 第七條左ノ通改正
 ス
 第七條海軍技術會
 議ニ書記四人ヲ置
 キ屬ヲ以テ之ニ充
 ツ

第五條 海軍技術會議幹事ハ佐官又ハ機技部上長官副幹事ハ大尉若クハ機技部士官
 ナ以テ之ニ補ス
 第六條 議員ハ定數ナシ在職ノ佐尉官技士部上長官士官ヲ以テ之ニ兼補ス
 第七條 海軍技術會議ニ書記ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

●海軍衛生會議條例制定

明治二十二年四月
 勅令第四十八號

朕海軍衛生部官制ヲ廢止シ海軍衛生會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 海軍衛生會議條例

第一條 海軍衛生會議ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央衛生
 會議ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ鎮守府衛生會議ト稱ス
 第二條 中央衛生會議ハ海軍大臣ニ隸シ鎮守府衛生會議ハ其司令長官ニ隸ス
 第三條 中央衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如ク
 一 海軍一般ニ施行スヘキ衛生ニ關スル事項
 二 流行病傳染病豫防法ノ海軍一般ニ關スル事項
 三 治療法ニ關スル事項
 四 藥品療用品ノ品種數額ノ規程ニ關スル事項

●海軍衛生會議
 條例中削除
 明治二十三年十
 月
 勅令第二百四十
 四號
 朕海軍衛生會議條
 例中削除ノ件ヲ裁
 可シ茲ニ之ヲ公布
 セシム
 海軍衛生會議條例
 中削除スルコト左
 ノ如シ
 第五條中「會計主
 務一人屬」ノ七字
 ナ削除ス
 第十三
 條ヲ削除ス

五 軍人身體ノ査定法ニ關スル事項
 六 軍人糧食ノ品種分量ニ關スル事項
 七 軍醫官及軍醫候補生生徒ノ採用教育法
 八 軍醫官以下軍醫部人員服務ノ定則
 第四條 中央衛生會議ニ於テハ恩給賑賙金ニ係ル診斷書ヲ調査ス
 第五條 中央衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク
 議長 一人 軍醫總監
 議員 五人 軍醫監四人内三人ハ本職アル者ヲ以テ兼補ス 大軍醫一人
 書記 一人 大軍醫議員ヲ以テ兼補ス
 會計主務 一人 屬
 第六條 中央衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ總理シ鎮守府衛生會議ヲ監督ス
 第七條 中央衛生會議議長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ議案ヲ作り或ハ必要ト思考スルト
 キハ議長ヨリ議案ヲ發シ議定ノ後其意見ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ
 第八條 中央衛生會議議長ハ各鎮守府衛生會議議長及海軍艦船營應ノ軍醫官ヨリ出
 シタル醫務衛生ニ關スル統計報告ヲ審查シ毎年報告ヲ作り海軍大臣ニ呈スヘシ
 第九條 中央衛生會議議長ハ海軍豫算決定ノ前ニ於テ毎年準備供給スヘキ藥品療用

- 品ノ品種定額及其豫算金額ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ。
- 第十條 中央衛生會議議長ハ外國ニ航スル艦船ノ軍醫官ニ訓令ヲ下スヲ必要ト思考スルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申スル事ヲ得
- 第十一條 中央衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項ノ調査ヲ分擔ス
- 第十二條 中央衛生會議書記ハ議長ノ命ヲ受ケ諸報告統計ヲ蒐集調査シ會議ノ庶務ヲ幹理ス
- 第十三條 中央衛生會議ノ會計主務ハ本會議及附屬軍醫學校ノ會計ノ事ヲ掌ル
- 第十四條 本條例第五條ニ掲クル職員ノ外中央衛生會議ニ藥劑監又ハ藥劑官一人ヲ置キ議長ノ命ヲ受ケ藥品療用品ニ係ル調査ニ從事セシメ又判任官若干人ヲ置キ庶務ニ從事セシム
- 第十五條 鎮守府衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如シ
 - 一 軍港内ノ衛生ニ關スル事項
 - 二 鎮守府所轄營校舎營病院ノ構造ニ關スル衛生上ノ事項
 - 三 所轄艦船營廳ノ醫務衛生ニ關スル事項
- 第十六條 鎮守府衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長

一人 軍醫大監

議員

五人 軍醫大監一人軍醫少監一人大軍醫一人他ノ二人ハ

書記

一人 大軍醫議員ヲ以テ兼補ス

- 第十七條 鎮守府衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ整理ス
- 第十八條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府所轄艦船營廳ノ軍醫官ヲ監督シ其諸報告ヲ調査シテ中央衛生會議議長ニ送付スヘシ
- 第十九條 鎮守府衛生會議議長ハ海軍病院ノ醫務ヲ統理ス
- 第二十條 鎮守府衛生會議議長ハ藥品療用品準備供給ノ成規ニ關シ其意見ヲ司令長官ニ具申スヘシ
- 第二十一條 鎮守府衛生會議議長ハ軍醫候補生看護手看病夫實地教習ノ事ヲ掌ル
- 第二十二條 鎮守府衛生會議議長ハ病院附軍醫ヲ軍港内各所ニ派出シ看護手看病夫ヲ艦船營ニ配置シ及之ヲ各所ニ派出スル事ヲ掌ル
- 第二十三條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府管内ノ醫務衛生ノ景況ヲ中央衛生會議議長ニ通報スヘシ
- 第二十四條 鎮守府衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項ノ調

院病軍

會議附藥劑官 藥劑官

一

三等看病夫

十二

●海軍會計監督部條例

明治二十二年四月 勅令第五十四號

朕海軍會計監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍會計監督部條例

- 第一條 海軍會計監督部ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央會計監督部ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ鎮守府會計監督部ト稱ス
- 第二條 鎮守府所在地外ニ海軍所屬廳アルトキハ會計監督官一名ヲ置ク
- 第三條 中央會計監督部ハ海軍大臣ニ隸シ海軍省及東京ニ在ル海軍各廳ノ金錢物品ノ出納人民ニ對スル契約及財産ノ増減ニ關スル事件ヲ監督ス
- 第四條 鎮守府會計監督部ハ所在鎮守府司令長官ニ隸シ鎮守府及其所在地海軍所屬廳艦船營ノ金錢物品ノ出納人民ニ對スル契約及財産増減ニ關スル事件ヲ監督ス
- 第五條 鎮守府所在地外海軍所屬廳會計監督官ハ其廳ノ金錢物品ノ出納人民ニ對スル契約及財産増減ニ關スル事件ヲ監督ス
- 第六條 中央會計監督部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一人 主計總監

部員

二人 主計大監一人 主計少監一人

第七條 鎮守府會計監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

一人 主計大監

部員

一人 橫須賀鎮守府ニハ一人ヲ増ス 主計少監

第八條 中央會計監督部長ハ其部務ヲ整理シ鎮守府會計監督部及海軍所屬廳會計監督官ヲ監視ス

第九條 鎮守府會計監督部長ハ其部務ヲ整理ス

第十條 鎮守府會計監督部長ハ其部務ヲ執行スルニ於テハ司令長官ノ指揮ヲ受クルノ限ニ在ラス

第十一條 補員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第十二條 海軍所屬廳會計監督官ハ主計少監ヲ以テ之ニ補ス

第十三條 海軍所屬廳會計監督官ハ其本務ヲ執行スルニ於テハ其廳長ノ指揮ヲ受クルノ限ニ在ラス

第十四條 海軍所屬廳會計監督官ハ時宜ニ因リ最近鎮守府ノ會計監督部員ヲ以テ兼補シ又ハ甲廳監督官ヲシテ乙廳監督官ヲ兼務セシメ隨時臨檢ノ方法ヲ設クル事ヲ得

第十五條 會計監督部長部員海軍所屬應會計監督官ハ事件ノ法律命令ニ違フコトナキヤ否ヤヲ監督スルニ止マリ其施行ニ干涉スル事ヲ得ス

第十六條 會計監督部長部員海軍所屬應會計監督部ハ必要ト思考スルトキハ主任官吏ヲ喚問シ又ハ各艦艦營ニ臨檢スル事ヲ得

第十七條 會計監督部及海軍所屬應會計監督官ニ屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

●海軍會計監督部條例中改正追加

明治二十三年十月
勅令第二百四十五號

朕海軍會計監督部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍會計監督部條例中左ノ通改正ス

第六條 中央會計監督部ニ部長部員ヲ置キ部長ハ主計總監ニ或ハ主計大監ヲ以テ之ニ補シ部員ハ主計少監或ハ大主計ヲ以テ之ニ補ス

第七條 領守府會計監督部ニ部長部員ヲ置キ部長ハ主計大監ヲ以テ之ニ補シ部員ハ大主計ヲ以テ之ニ補ス

第十七條 會計監督部及海軍所屬應會計監督官ノ下ニ書記ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充ツ書記ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十八條 會計監督部ノ定員ハ左表ノ如シ

會計監督部定員表

中央會計監督部	部長	主計總監或ハ主計大監	書記	三
橫須賀鎮守府會計監督部	部長	主計少監或ハ大主計	書記	三
吳鎮守府會計監督部	部長	主計大監	書記	三
佐世保鎮守府會計監督部	部長	主計大監	書記	三

●海軍大學校條例制定

明治二十三年十月
勅令第二百四十九號

朕海軍大學校官制ヲ廢シ海軍大學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第三條 海軍大學校學生ハ分テ左ノ三種トス

甲號 大尉ニシテ砲術水雷術航海術ノ高等學科ヲ修ムル者及大機關士ニシテ高等機關學ヲ修ムル者

乙號 佐官機關監又ハ大尉大機關士ニシテ任意ノ學科ヲ修ムル者

丙號 少尉少機關士ニシテ高等ノ學科ヲ修ムル者
 第四條 甲號學生丙號學生ハ試験ヲ行ヒ合格者ニ就キ海軍大臣之ヲ命ス乙號學生ハ志願ニ依リ海軍大臣之ヲ認可ス
 第五條 學生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得
 第六條 甲號乙號學生ノ學期ハ一箇年トシ丙號學生ノ學期ハ五箇月トス
 第七條 砲術科水雷科ヲ卒業シタル甲號學生ハ各其專科ノ練習艦ニ移シ六箇月間實地ノ練習ヲ爲サシム
 第八條 航海科卒業及機關學卒業ノ甲號學生ニハ卒業ノ後其他ハ練習艦卒業ノ後各其科ニ應ジ砲術長水雷長航海長機關長適任證書ヲ授與ス
 第九條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 中將或ハ少將
 次長 大佐
 副官 大尉
 教頭 次長ヲ以テ兼補ス
 教官 佐官大尉陸軍工兵佐官機技部上長官士官教授
 軍醫長 大軍醫

主計長 大主計
 第十條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
 第十一條 次長ハ校長ヲ佐ケ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
 第十二條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌ル
 第十三條 教頭ハ校長ノ命ヲ受ケ教官ヲ指揮シ教授ノ事ヲ監督ス
 第十四條 教官ハ教頭ノ指揮ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
 第十五條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ校内ノ醫務衛生ヲ掌ル
 第十六條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與ヲ掌ル
 第十七條 海軍大學校ニ下士卒判任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
 第十八條 海軍大學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 中將或ハ少將	教頭	次長ヲ以テ兼補ス	一	一等下士	一
	佐官大尉	陸軍工兵佐官	四	助教	二
次長 大佐	教官	機技部上長官	二	屬	二
	大機關士	大技士	一	一等卒	五
副官	教授		六	二等卒	二
大尉			二		二

軍醫長 大軍醫	一	三等卒	二
主計長 大主計	一	四等卒	

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

●海軍大學校規則

明治二十三年十一月
海軍省達第三百六十九號

海軍大學校規則左ノ通定ム

海軍大學校規則

- 第一條 學生ハ概テ甲號二十名乙號十名丙號二十名トシ修學中ハ本校ノ管轄トス
- 第二條 甲號乙號學生ノ學期ハ毎年九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ルモノトシ
丙號學生ノ學期ハ毎年九月十一日ニ始リ翌年二月二十四日ニ終ルモノトシ二月二十五日ニ始リ同年七月二十四日ニ終ルモノ、二種トス
- 第三條 學生ノ修ムヘキ學科目ハ左ノ如シ
- 砲術 水雷術 航海術純象學之ニ屬ス 機關學 造船學 測量術 築城學 代數學 平
弧三角術 代數幾何學 運動學 靜力學 動力學 流體靜力學 應用力學 英
佛語學 物理學 化學 寫眞術
- 學生ノ學科目ヲ區別スルコト左ノ如シ

甲號學生砲術科水雷科

砲術若クハ水雷術 機關學 造船學 築城學 應用力學 物理學 化學 寫眞術
術 代數學 平弧三角術 代數幾何學 運動學 靜力學 動力學 流體靜力學

甲號學生航海科

航海術實地理論 測量術實地理論 機關學 造船學 應用力學 物理學 化學 寫眞術
代數學 平弧三角術 代數幾何學 運動學 靜力學 動力學 流體靜力學

乙號學生一部

砲術若クハ水雷術 航海術 機關學 造船學 測量術 物理學 化學 寫眞術
代數學 平弧三角術 代數幾何學 運動學 靜力學 動力學 流體靜力學

乙號學生二部

砲術若クハ水雷術 航海術 機關學 造船學 英佛語學 化學 寫眞術
乙號學生科目中砲術若クハ水雷術航海術機關學ハ必修科目トシ他ノ學科ハ任意科
目トス但任意科目ハ教務ノ都合ニヨリ取捨變換スルコトアルヘシ

丙號學生

物理學 代數學 平弧三角術 代數幾何學 天文學
前記諸學科ノ外各學生ニ特殊講義ヲ設ク其講義ハ左ノ如シ

海軍戰術 陸軍戰術 萬國公法 海軍衛生學

第四條 學生全教程ヲ終リタルトキハ卒業試験ヲ行ヒ及第者ニハ卒業證書ヲ授與ス但教程中完了シタル學科ハ其時々試験ヲ行フコトヲ得

第五條 學用品ハ學生ノ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械ハ其種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第六條 休職者中本校ニ就キ修學ヲ願フ者ハ大學校長ニ出願スヘシ校長ハ甲乙丙各號外ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 學生ニ缺員ヲ生シ之カ補充ヲ要スルトキ又ハ休職修學者ニ學生タル資格ヲ有スル者アルトキ校長ハ修學者ヲ撰拔シ學生ヲ命セラレノコトヲ具申スルコトアルヘシ

第八條 乙號學生志願ノ者ハ毎年五月三十日迄ニ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ出ス可シ

第九條 校長ハ學期ノ終リニ於テ教頭教官ヲ會同シ學術進步ヲ調査シ其優劣ヲ議決シ證明書ヲ製シ試験成績表ヲ附シテ海軍大臣ニ出ス可シ

第十條 次長ハ本校ノ定則ヲ維持シ諸員ノ職務ヲ監視ス次長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲ス可シ

第十一條 副官ハ所管用地内ノ取締ニ關スル事務及本校附屬ノ船艇並ニ書籍器械ヲ保管ス

第十二條 教頭ハ學術試験及編纂翻譯ノ事ヲ監督ス

第十三條 教頭ハ教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申ス可シ

第十四條 教官ハ各自受持ノ教授ニ從事シ每週教授報告ヲ出シ又分擔授業ニ關スル編修又ハ圖書器械ノ保存ヲ掌ル

第十五條 副官附屬ハ文書ノ往復監護以下諸備ノ取締圖書器械ノ保存出納其他副官ノ命スル事務ニ服ス

第十六條 助教ハ教官ヲ補助シ各其主務ニ従事ス

第十七條 主計長附屬ハ金錢ノ出納物件ノ購買其他主計長ノ命スル事務ニ服ス

第十八條 校長又ハ本校宛ノ文書ハ副官之ヲ受領シ件名簿ニ登記セシメ校長若クハ次長ノ査閱ニ供ス可シ其親展ニ係ルモノハ直ニ之ヲ呈スヘシ

第十九條 校長ハ文書ヲ査閱シ副官又ハ主計長ニ意ヲ授ケ處理セシム

第二十條 副官主計長ハ下付ノ書類ヲ審査シ上申照會ヲ要スルモノハ文案ヲ起草シ之ヲ校長ニ出シ決裁ヲ得テ之ヲ處分スヘシ

●海軍大學校下士卒定員職別表

明治二十三年十一月
海軍省達第三百八十八號

海軍大學校下士卒定員職別表左ノ通定ム

海軍大學校下士卒定員職別表

一等兵曹	一	二等水兵	一
一等機關手	一	三等水兵	一
		四等水兵	一
		二等看病夫	一

●海軍兵學校條例制定

明治二十三年十月 勅令第二百五十號

朕海軍兵學校官制ヲ廢シ海軍兵學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校條例

- 第一條 海軍兵學校ハ將校及機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 將校ト爲ルヘキ生徒ヲ將校生徒ト稱シ機關官ヲ爲ルヘキ生徒ヲ機關生徒ト稱ス
- 第二條 海軍兵學校ニ軍艦ヲ屬シ實地練習ノ用ニ供ス
- 第三條 生徒ノ學期ハ四箇年トス
- 第四條 生徒ハ年齡滿十六年以上二十年未滿ニシテ海軍將校若クハ海軍機關官タラ

ノコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス

- 第五條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ
 - 一 有妻ノ者
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ辦償ヲ終ヘサル者
- 第六條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス
- 第七條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第八條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ
- 第九條 生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス
 - 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
 - 二 試験ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 - 三 傷痍疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者
- 第十條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 少將
- 次長 大佐
- 副官 大尉

造船學教官	少技監ノ内	一本職アル者ヲ以テ兼務セシム	十三	二等下士	十四
普通學教官	教授		十三		
副官	大尉		二	三等下士	九
監事長	少佐				
監事	大尉 十三	二人専務十一人教官ヲ兼務セシム	一	一等卒	十一
	大機關士	二教官ヲシテ兼務セシム			
軍醫長	軍醫少監		一	二等卒	十九
大軍醫			一		二十六
少軍醫			一		
主計長	主計少監		一	三等卒	五十九
大主計			一	四等卒	

上等兵曹機關師及一等下士ノ内十八人二等下士ノ内十八人三等下士ノ内八人ハ教官トス

●海軍兵學校准士官下士卒定員職別表

明治二十三年十一月
海軍省達第三百九十三號

海軍兵學校准士官下士卒定員職別表左ノ通定ム

海軍兵學校准士官下士卒定員職別表													
上等兵曹	一等兵曹	二等兵曹	三等兵曹	機關師	一等機關手	二等機關手	三等機關手	船匠師	一等船匠手	二等船匠手	一等鍛冶手	二等鍛冶手	二等看護手
教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員						
三	七	七	八	二	三	二	一	一	一	一	一	一	一
一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	三等	一等	二等	一等	二等	一等
水兵	水兵	水兵	水兵	火夫	火夫	火夫	木工	木工	木工	木工	鍛冶	鍛冶	看護
兵	兵	兵	兵	夫	夫	夫	工	工	工	工	治	治	夫
十一	十一	十一	十一	四	七	九	一	二	三	二	一	二	一
七十				二十			六				六		二

●海軍主計學校條例制定

明治二十三年十月 勅令第二百五十二號

朕海軍主計學校官制ヲ廢シ海軍主計學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍主計學校條例

- 第一條 海軍主計學校ハ主計ニ高等ノ學術ヲ教授シ新募ノ少主計候補生ニ海軍主計官ニ必要ノ學術ヲ教授シ主帳廚夫ニ主帳ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス
- 第二條 海軍主計學校ニ於テ教育スル主計少主計候補生ヲ海軍主計學校學生ト稱シ主帳廚夫ヲ海軍主計學校練習生ト稱ス
- 第三條 學生ハ海軍大臣之ヲ命ス
- 主帳廚夫ニ練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 學生練習生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得
- 第五條 學生ノ學期ハ一箇年トシ練習生ノ學期ハ十箇月トス
- 第六條 海軍主計學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 主計大監

監事 主計少監大主計

教官 教授

軍醫長 大軍醫

主計長 大主計

- 第七條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第八條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生練習生ヲ監督ス
- 第九條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
- 第十二條 海軍主計學校ニ上等主帳下士卒屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十三條 海軍主計學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 主計大監	監事 主計少監 或大主計	三	上等主帳	一
	教官 教授	四	下士	一
	軍醫長 大軍醫	一	屬	一
	主計長 大主計	一	卒	七
				七一七一

上等主帳及下士ノ内二人ハ教員トス
教官教員ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

●海軍主計學校規則

明治二十三年十一月
海軍省達第三百七十九號

海軍主計學校規則左ノ通定ム

海軍主計學校規則

- 第一條 學生及練習生修學中ハ本校ノ管轄トス
- 第二條 學生ノ學期ハ毎年九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ルヲ例トス
毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテ夏期休業トシ十二月二十五日ヨリ翌年一月五日マテ冬期休業トス
- 校長ハ夏期冬期休業中學生ニ外宿ヲ許スコトヲ得
- 第三條 學生ノ學科ハ法律經濟簿記數學ヲ本科トシ英語學ヲ別科トス但時宜ニ依リ別科ニ佛語學ヲ加フルコトアリ
- 第四條 學生ノ試験ハ小試験大試験ノ二種ニシテ小試験ハ學期間二回トシ教官之ヲ行ヒ大試験ハ學期ノ終ニ於テ校長臨監シ教官之ヲ行フ
- 大試験及第者ニハ卒業證書ヲ授與ス

- 第五條 試験全點數ハ一學科ヲ百點トシ各科全點數十分ノ四以上ニシテ各科ヲ合算シ其全點數十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ及第トス但別科ノ點數ハ本科ニ算入セス
- 一學科中小科目アル者ハ各小科目ノ全點ヲ百點トシ小科目數ヲ以テ其總得點ヲ除シ得タル者ヲ該一學科ノ得點トス但法律學ノ小科目ハ各一學科トス
- 第六條 大試験ノ成績ハ其平均點ニ小試験平均點ヲ合算シ全點數十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一等トシ其以下ヲ二等トス
- 第七條 學用品ハ學生ノ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械ハ其種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ
- 第八條 休職者中本校ニ就キ修學ヲ願フ者ハ主計學校長ニ出願スヘシ校長ハ學生外ニ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第九條 練習生ニ係ル規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十條 校長ハ教育紀律ヲ監督シ之ニ關スル内則ヲ定ム
- 第十一條 校長ハ大試験終了ノ後監事教官ヲ會同シ大試験成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ出スヘシ
- 第十二條 校長事故アルトキハ特ニ代理ヲ命スルトキノ外先任監事其職務ヲ代理スヘシ

- 第十三條 監事ハ本校ノ定則ヲ維持シ教育ニ關スル事務ヲ掌理ス但先任監事ハ専ラ之カ整理ニ任スヘシ
- 第十四條 監事ハ常ニ學業ノ督勵ニ注意シ講堂及温習室ヲ巡視シ勤惰ヲ監視スヘシ又試験ヲ行フトキハ列席スヘシ
- 第十五條 監事ハ交番校内ニ當直スヘシ
- 第十六條 教官ハ日課ニ從ヒ各教授ヲ擔任シ學術進步ノ狀況ヲ考察シ時々校長ニ申報スヘシ又試験ヲ行ヒタルトキハ其成績表ヲ出スヘシ
- 第十七條 教員タル准士官下士ハ監事若クハ教官ノ指示ニ從ヒ各科ノ教授ヲ分擔スヘシ
- 第十八條 軍醫長ハ看護手看病夫ヲ監督シ本校ノ醫務衛生ヲ掌理ス
- 第十九條 主計長ハ金錢物品ノ出納購買及被服糧食ノ受授配給ヲ掌理ス
- 第二十條 主計長ハ公文ノ受授官印ノ管守及監事ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ處理スヘシ
- 第二十一條 上等主帳主帳及屬ハ會計事務庶務ニ關シテ主計長ノ命ヲ承テ從事スヘシ
- 第二十二條 監事主掌事務ニ關シテハ其處分案ヲ具シ校長ニ出シ校長檢印ノ後主計

長ニ移シ淨書發付セシム

第二十三條 本校ニ到來ノ公文ハ主計長ヨリ各主掌者ニ回付スヘク主掌者處分若クハ閱覽ノ後之ヲ主計長ニ還付スヘシ

主計長ハ屬僚ヲシテ公文ヲ編纂保管セシム但後日ニ用ナキ公文ハ校長ノ査閲ヲ經テ廢棄スヘシ

第二十四條 在校ノ准士官下士卒ニ係ル紀律ハ特ニ本校ニ於テ設ケタルモノ、外專ラ艦内ノ例ニ準スヘシ

附則

第二十五條 現在ノ生徒ハ卒業マテ監事之ヲ監督シ教官教授ヲ掌ル

第二十六條 生徒ノ學科ハ和漢學英佛語學法律經濟數學簿記海軍法規ノ七科トス

第二十七條 試験格例及身分ニ關スル事項ハ仍ホ從前ノ例規ニ據ル

●海軍主計學校准士官下士卒定員職別表

明治二十三年十一月
海軍省達第三百九十號

海軍主計學校准士官下士卒定員職別表左ノ通定ム

海軍主計學校准士官下士卒定員職別表

一等兵曹	一等看護手	一等看護夫	一等下士
二等兵曹	上等主帳教員	二等看護夫	二等下士
三等兵曹	二等主帳教員	三等看護夫	三等下士
	二等主帳	四等看護夫	四等下士

海軍機關學校條例制定

明治二十三年十月 勅令第二百五十三號

朕海軍機關學校官制ヲ廢シ海軍機關學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校條例

- 第一條 海軍機關學校ハ横須賀鎮守府ニ屬シ機關師ト爲ルヘキ機關手機關手ト爲ルヘキ火夫ヲ教育スル所トス
- 第二條 海軍機關學校ニ於テ教育スル機關手火夫ヲ海軍機關學校練習生ト稱ス
- 第三條 練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 練習生ハ校内ニ寄宿セシム
- 第五條 練習生ノ學期ハ一箇年トス

第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 機關大監
- 教官 機關少監大機關士
- 部長 教官ヲ以テ兼補ス
- 軍醫長 大軍醫
- 主計長 大主計
- 第七條 校長ハ横須賀軍港司令官ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第八條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第九條 部長ハ校長ノ命ヲ受ケ部員ヲ統率シ其事務ヲ掌ル
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
- 第十二條 海軍機關學校ニ機關師下士卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十三條 海軍機關學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 機關大監	教官 機關少監	軍醫長 大軍醫	主計長 大主計
部長 教官ヲ以テ兼補ス	部長 教官ヲ以テ兼補ス	部長 教官ヲ以テ兼補ス	部長 教官ヲ以テ兼補ス
一	一	一	一
二	二	二	二
三	三	三	三
四	四	四	四
五	五	五	五
六	六	六	六
七	七	七	七
八	八	八	八
九	九	九	九
十	十	十	十
十一	十一	十一	十一

機關師及下士ノ内十二人ハ教員トス
教官教員ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

●海軍機關學校規則 明治二十三年十一月
海軍省達第三百八十三號

海軍機關學校規則左ノ通定ム

海軍機關學校規則

- 第一條 海軍機關學校ノ紀律ハ專ラ艦内ノ例ニ準ス
- 第二條 機關學校ニ機械工場ヲ屬シ工業教授ノ用ニ供ス
- 第三條 機關學校練習生ハ一等機關手二等機關手及一等火夫二等火夫ニシテ練習生志願者ニ就キ採用ス
- 第四條 練習生ト爲スヘキ機關手ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ
 - 第一 年齢三十五年以下ノ者
 - 第二 品行善良ニシテ才幹アリ機關師タルニ堪フヘキ者
 - 第三 二等機關手ハ卒業後五箇年一等機關手ハ卒業後四箇年以上服役スヘキ者
 - 第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者
 - 第五 試験ニ合格シタル者

第五條 練習生ト爲スヘキ火夫ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

- 第一 年齢三十年以下ノ者
- 第二 品行善良ニシテ才幹アリ機關手タルニ堪フヘキ者
- 第三 二等火夫ハ卒業後四箇年以上一等火夫ハ卒業後三箇年以上服役スヘキ者
- 第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者
- 第五 試験ニ合格シタル者
- 第六條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ須要ニ應シ毎年鎮守府毎ニ之ヲ定メ採用日限ハ横須賀鎮守府ニ於テ之ヲ定ム
- 第七條 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦團隊校應長ハ志願者ヲシテ出願セシメ第四條第五條中第五項ノ外各項ニ適合スル者ヲ調査シ其官職氏名ヲ機關學校長ニ通牒ス可シ
- 第八條 機關學校長前條ノ通牒ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り之ヲ艦團隊校應長ニ送附ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ機關學校長ニ送附ス可シ
試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム
- 第九條 入校試験科目ハ機關手ニ在テハ火夫練習生教程火夫ニ在テハ五等火夫教程ニ依ル

第十條 校長ハ各鎮守府毎ニ受験者ヲ區別シ成績順序ヲ以テ官職氏名ヲ列記シ入校期日ヲ定メ横須賀鎮守府ニ屬スルモノハ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達シ他鎮守府ニ屬スルモノハ各共司令長官ニ進達ス可シ

第十一條 各鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ合格者ノ順序ニ依リ所要ノ人員ヲ定メ艦隊隊長ヲシテ練習生ヲ命シ期日內ニ入校セシム可シ

第十二條 合格者ノ數所要ノ人員ニ超過スルトキハ試験成績ノ順序ニ依リ成績同シキ者ハ等級ノ順序ニ依リ練習生ヲ命ス

合格者中機關手適任證書ヲ有スル者アルトキハ前項ノ順序ニ拘ハラズ練習生ヲ命ス可シ

第十三條 練習生ノ學科ハ本科及別科ノ二種トス

第十四條 練習生タル機關手ノ學科ハ左ノ如シ

本科	科目
機關學	機關學總論 「インダケートル」スライドヴァルプ「解説及使用方法 燃料ノ大意及汽罐各部構造ノ大意 汽罐破裂及衰朽ノ原因、汽罐ノ保存法検査法
圖學	製圖法、寫圖、見取圖、製圖

數學	機關的實用算術
工業	煉鐵及製鐵業 鑄鑿及旋盤業
事務	需品取扱法、諸報告日誌記入法
別科	科目
英學	汽機汽罐名稱綴字法
武科	火夫練習生教程
本科	科目
機關學	汽罐各部並ニ附屬器械名稱及効用 汽機各部並ニ附屬器械名稱及効用 推進機各部名稱及効用 機關、壓搾機及發電氣使用法概略
圖學	實用幾何 見取圖
數學	分數 單、復、案分比例

豫備艦或ハ練習艦ニ於テ解説及使用法等ヲ修熟セシム

授業時間外ニ水泳擊劍ヲ爲サシム

第十五條 練習生タル火夫ノ學科ハ左ノ如シ

工業	煉鐵及鋸鐵業 鑄造及旋盤業
別科	科 目
讀書	日本小史 中地理書
武科	銃隊操式中生兵ヨリ分隊マテ 端舟挽漕

工業ハ煉鐵、鑄造ノ二種ニ分テ專修セシム

時宜ニ依リ實業ヲ必要トスルトキハ工業時間中豫備艦或ハ水雷艇等ニ於テ修業セシムルコトヲ得

授業時間外ニ水泳擊劍ヲ爲サシム

第十六條 試験ハ小試験及大試験ノ二種トス

第十七條 小試験ハ毎月教官之ヲ行ヒ大試験ハ全科終ルノ後校長臨席シ教官之ヲ行

第十八條 小試験及大試験ニ於ケル及第點數ハ本科ニ在テハ各科全點數ノ十分ノ五別科ニ在テハ各科全點數十分ノ四以上トス

第十九條 大試験ノ成績ハ各科小試験平均得點數ト大試験得點數トヲ合算シテ之ヲ

定ム

第二十條 大試験ニ及第シタルトキハ機關手ニハ機關師適任證書火夫ニハ機關手適任證書ヲ授與ス

第二十一條 適任證書ハ左項ノ一ニ依リ其成績ニ應シ一等若クハ二等トス

第一 本科全點數ノ十分ノ八別科全點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ一等トス

第二 本科全點數ノ十分ノ五別科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第二十二條 大試験ニ落第シタル者ハ若干日間ノ復習ヲ爲サシメ其落第シタル科目ノ再試験ヲ行フコトヲ得而シテ及第者ニハ二等適任證書ヲ授與ス

第二十三條 大試験若クハ其再試験ニ落第シタル練習生及修學中傷痍疾病若クハ怠慢ニシテ卒業ノ目途ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ者ハ横須賀鎮守府海兵團

在籍ナルトキハ校長軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免シ他海

兵團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各

其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免ス可シ

第二十四條 校長ハ練習生ノ教育進退其他ノ件ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ

教官部長ヲ會同シ會議ヲ開キ校長議長トナリ審議決定ス可シ

第二十五條 校長ハ卒業アル毎ニ大試験成績表ヲ製シ軍港司令官ニ出ス可シ

第二十六條 前任教官ハ教務ヲ整理シ校長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス
 第二十七條 教官ハ常ニ學術進歩ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ前任教官ヲ經テ校長ニ具中ス可シ

第二十八條 前任部長ハ校務ヲ整理シ專ラ紀律ヲ掌ル

第二十九條 部長ハ部下士卒ノ容儀品行ヲ監視シ志操ヲ養成ス

第三十條 教員ハ教官部長ノ指揮ヲ受ケ教授及部務ニ従事ス

●海軍機關學校准士官下士卒定員職別表

明治二十三年十一月
 海軍省達第三百八十九號

海軍機關學校准士官下士卒定員職別表左ノ通定ム

海軍機關學校准士官下士卒定員職別表

機關師	四	一等水兵(信號)	一
一等兵曹	一	二等水兵(信號)	一
二等兵曹	三	一等看病夫	一
一等機關手	三	二等看病夫	一
二等機關手	三	一等廚夫	二
一等技工	二		
二等技工	二		

一等看護手	二	二等廚夫	三
二等主帳	二	三等廚夫	三
三等主帳	一		

●海軍造船工學校官制

明治二十二年五月
 勅令第七十四號

朕海軍造船工學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造船工學校官制

第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ工夫ヲ教育スル所トス

第二條 海軍造船工學校ノ事務ハ總テ横須賀鎮守府造船部ニ於テ管理ス

第三條 海軍造船工學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一人 造船部在職ノ技監或ハ技士ヲ以テ兼補ス

教官 若干人 造船部員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 校長ハ造船部長ノ命ヲ受ケ校務ヲ整理ス

第五條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

●海軍造船工學校官制第一條改正

明治二十三年三月
 勅令第二十六號

朕海軍造船工學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治二十二年五月勅令第七十四號海軍造船工學校官制中左ノ通改正ス
 第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ技工出身志願ノ生徒ヲ教育
 スル所トス

●海軍造船工學校條例改正

明治二十三年五月
 海軍省達第二百號

海軍造船工學校左ノ通改正ス

海軍造船工學校條例

- 第一條 海軍造船工學校ニ於テハ造船部ノ職工ニシテ技工出身志願ノ者ヲ生徒ト爲
 シ之ヲ教育ス
- 第二條 志願者ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ
- 第一 年齡十七年以上二十五年以下ノ者
- 第二 品行善良ニシテ才能アリ技工タルニ堪フヘキ者
- 第三 六箇月以上現業ニ服シタル者
- 第三條 左ニ掲クル者ハ志願スルコトヲ得ス
- 第一 陸軍ノ豫備役後備役ニアル者

- 第二 徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 第四 刑ニ處セラレタル者若クハ刑事被告人トナリ裁判未決ノ者
- 第五 有妻ノ者
- 第四條 生徒ニ採用スヘキ人員ハ其須要ニ依リ毎年造船部コトニ之ヲ定ム
- 第五條 生徒採用ノ達アリタルトキハ造船部長ハ備職工中技工出身志願者ヲシテ出
 願セシメ第二條ニ適合ノ者ヲ選抜シ其職姓名ヲ横須賀鎮守府造船部長ニ通牒ス可
 シ
- 第六條 志願人ニハ本籍市町村長東京市大阪市ノ區長京都市ハ區長ノ証印アル戸籍明細書ヲ出サシメ其願
 書ニ父兄親族其他一家ヲ成ス身元確實ナル者二名ヲ保證人トシテ連署セシム可シ
- 第七條 志願者ハ左ノ入校試験ヲ受ケシム
- 第一 身體検査
- 第二 學科試験
- 身體検査ニ不合格者ノ學科ハ試験セズ
- 第八條 身體検査ハ各造船部ニ於テ軍醫之ヲ行ヒ其合格不合格ヲ定ム
- 志願人身幹五尺以上身體完全強健精神異常ナキ者ヲ合格トシ否サル者ヲ不合格ト

ス但身體檢査格例ハ海軍志願兵身體檢査格例ニ依リ其體重ハ十二貫胸圍ハ二尺六寸胸廓擴張ハ二寸活量ハ百五十立方寸百八十一立方寸以上トス

第九條 學科試驗ハ横須賀鎮守府造船部ノ職工ハ造船工學校ニ於テ之ヲ行ヒ他鎮守府造船部職工ハ校長ヨリ各部長ニ問題書ヲ送付シ部長ハ其問題ヲ以テ試験ヲ施行シ其答書ヲ校長ニ送付スヘシ

造船工學校長ハ受験者ノ學科成績ヲ調査シ其成績順ニ從ヒ所定ノ人員ヲ列記シ部長ニ出スヘシ部長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ入校ヲ命ス可シ

第十條 生徒ハ豫科及本科ニ分テ志願セシム

第十一條 豫科ヲ志願スル者ノ試験ハ讀書、算術、代數、作文、英學ノ四科トス讀書ハ日本外史類算術ハ四則分數比例開平開立代數ハ四術ヨリ一元一次方程式ニ至ル作文ハ通俗文記事文英學ハ英文和譯和文英譯トス

第十二條 本科ヲ志願スル者ノ試験ハ豫科課程トス

第十三條 生徒ヲ命セラレタル者ハ誓約書ニ署名捺印シ海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ表ス可シ

第十四條 生徒在校中ハ海軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム

第十五條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十六條 生徒ノ學期ハ五箇年トシ二箇年ヲ豫科學期トシ三箇年ヲ本科學期トス學科ハ左表ノ如シ

學期	學科	科目
第一	和漢學	日本外史
第一	算術	分數、比例、開平、開立
第一	代數	四則ヨリ一次方程式ニ至ル
第一	幾何學	平面、立體
第一	英語	讀書、文法
第一	見取圖	簡易
第二	和漢學	日本政記
第二	代數	二次方程式ヨリ二項法ニ至ル
第二	三角術	八線ノ定義ヨリ八線ト角度ノ諸關係説明ニ至ル
第二	畫法幾何	點、線、平面、立體
第二	英語	歷史類
第二	見取圖	諸機械
第二	重學	靜、力、動

申スヘシ造船部長ハ横須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ生徒ヲ免ス可シ
 第二十五條 校長ハ校内ノ定則ヲ維持シ校務ヲ整理ス
 第二十六條 校長ハ各科ノ教授ヲ整理シ常ニ其得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ造船部長ニ具申ス可シ
 第二十七條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ教授及ヒ試験ノ事ヲ掌理シ生徒ノ軍紀風紀ヲ維持シ志操ヲ養成スルヲ任トス

●海軍病院條例

明治二十二年四月 海軍省達第九十七號

海軍病院條例ヲ定ムルコト左ノ如ク

海軍病院條例

第一條 海軍病院ハ鎮守府衛生會議ニ屬シ鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置ク
 第二條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府衛生會議議員及海軍病院軍醫以下ヲ指揮シテ醫務ヲ統理ス
 第三條 鎮守府衛生會議議員タル軍醫大監ハ治療掛ノ長トシテ患者治療ノ事ヲ掌リ會議議長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス
 第四條 鎮守府衛生會議議員タル軍醫少監ハ治療掛ノ副長トシテ掛長ヲ助ク

●海軍病院條例
中改正

明治二十二年六月

海軍省達第九十七號
 本年(四月)達第九十七號
 例第七條海軍病院條例
 第十條海軍病院條例
 第十一條海軍病院條例
 第十二條海軍病院條例
 第十三條海軍病院條例
 第十四條海軍病院條例
 第十五條海軍病院條例
 第十六條海軍病院條例
 第十七條海軍病院條例
 第十八條海軍病院條例
 第十九條海軍病院條例
 第二十條海軍病院條例
 第二十一條海軍病院條例
 第二十二條海軍病院條例
 第二十三條海軍病院條例
 第二十四條海軍病院條例
 第二十五條海軍病院條例
 第二十六條海軍病院條例
 第二十七條海軍病院條例
 第二十八條海軍病院條例
 第二十九條海軍病院條例
 第三十條海軍病院條例
 第三十一條海軍病院條例
 第三十二條海軍病院條例
 第三十三條海軍病院條例
 第三十四條海軍病院條例
 第三十五條海軍病院條例
 第三十六條海軍病院條例
 第三十七條海軍病院條例
 第三十八條海軍病院條例
 第三十九條海軍病院條例
 第四十條海軍病院條例
 第四十一條海軍病院條例
 第四十二條海軍病院條例
 第四十三條海軍病院條例
 第四十四條海軍病院條例
 第四十五條海軍病院條例
 第四十六條海軍病院條例
 第四十七條海軍病院條例
 第四十八條海軍病院條例
 第四十九條海軍病院條例
 第五十條海軍病院條例
 第五十一條海軍病院條例
 第五十二條海軍病院條例
 第五十三條海軍病院條例
 第五十四條海軍病院條例
 第五十五條海軍病院條例
 第五十六條海軍病院條例
 第五十七條海軍病院條例
 第五十八條海軍病院條例
 第五十九條海軍病院條例
 第六十條海軍病院條例
 第六十一條海軍病院條例
 第六十二條海軍病院條例
 第六十三條海軍病院條例
 第六十四條海軍病院條例
 第六十五條海軍病院條例
 第六十六條海軍病院條例
 第六十七條海軍病院條例
 第六十八條海軍病院條例
 第六十九條海軍病院條例
 第七十條海軍病院條例
 第七十一條海軍病院條例
 第七十二條海軍病院條例
 第七十三條海軍病院條例
 第七十四條海軍病院條例
 第七十五條海軍病院條例
 第七十六條海軍病院條例
 第七十七條海軍病院條例
 第七十八條海軍病院條例
 第七十九條海軍病院條例
 第八十條海軍病院條例
 第八十一條海軍病院條例
 第八十二條海軍病院條例
 第八十三條海軍病院條例
 第八十四條海軍病院條例
 第八十五條海軍病院條例
 第八十六條海軍病院條例
 第八十七條海軍病院條例
 第八十八條海軍病院條例
 第八十九條海軍病院條例
 第九十條海軍病院條例
 第九十一條海軍病院條例
 第九十二條海軍病院條例
 第九十三條海軍病院條例
 第九十四條海軍病院條例
 第九十五條海軍病院條例
 第九十六條海軍病院條例
 第九十七條海軍病院條例
 第九十八條海軍病院條例
 第九十九條海軍病院條例
 第一百條海軍病院條例

●海軍病院條例
改正

明治二十三年五月

第五條 鎮守府衛生會議附藥劑官ハ調劑掛ノ長トシテ調劑分析ノ事ヲ掌ル
 第六條 海軍病院ニ軍醫若干人ヲ置ク其數ハ鎮守府所管ノ兵數ニ應ジ之ヲ定ム
 第七條 海軍病院附軍醫ハ衛生會議議長ノ指揮ヲ受ケ患者治療ノ事ヲ掌リ又各所ニ派出シテ醫務衛生ノ事ニ服ス
 第八條 鎮守府主計部計算課派出員ハ海軍病院ハ會計庶務ヲ掌ル
 第九條 海軍病院ノ會計及庶務ハ主計部長計算課長ニ於テ統理スト雖モ日常ノ事件ハ計算課派出員ニ委任シ衛生會議議長ノ指示ニ依リ定規ニ從ヒ處分セシムヘキモノトス
 第十條 海軍病院ニ於テハ軍醫候補生及看護手看護夫ノ教育ヲ爲ス
 第十一條 海軍病院ニハ定員トシテ看護手主廚看護夫若干人ヲ置ク
 第十二條 看護手看護夫ハ衛生會議議長ノ命ヲ受ケ看護調劑ノ事ニ服ス
 第十三條 主廚廚夫ハ計算課派出員ノ命ヲ受ケ庖厨ノ事ニ服ス
 第十四條 軍醫以下ハ衛生會議議長ノ命アルトキハ會議ニ關スル事務ニ服スヘキモノトス
 第十五條 艦營其他各所ニ要スル藥品療用品ハ海軍病院ヨリ供給ス
 第十六條 計算課派出員ハ藥品療用品供給ノ事務ヲ掌リ藥劑官ハ藥品療用品ノ保管

海軍省達第
二百三號
海軍病院條例第十
六條中「事ヲ掌ル」
ヲ「事ニ於テハ病
院課長ヲ補助ス」
ト改ム

及現品供給ノ事ヲ掌ル

第十七條 看護手看病夫ハ藥劑官ノ命ヲ受ケ藥品療用品保管供給ノ事ニ服ス

●海軍軍醫學校條例制定

明治二十三年十月
勅令第二百五十一號

朕海軍軍醫學校官制ヲ廢シ海軍軍醫學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
海軍軍醫學校條例

第一條 海軍軍醫學校ハ軍醫少軍醫候補生ニ高等ノ學術ヲ教授シ軍醫ト爲ルヘキ生
徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍軍醫學校ニ於テ教授スル軍醫少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生ト稱
ス

第三條 學生生徒ハ總テ通學セシム

第四條 學生ノ學期ハ一箇年トシ生徒ノ學期ハ四箇年トス

第五條 學生ハ海軍大臣軍醫少軍醫候補生ヨリ選抜シテ之ヲ命ス

第六條 生徒ハ官費私費ノ二種トシ私費生徒中ノ優等ナル者ヲ官費生徒トス

第七條 生徒ハ年齡滿十七年以上二十年未滿ニシテ海軍軍醫タランコトヲ志願スル
者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス

第八條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者

第九條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第十條 生徒ハ海軍兵籍ニ編入ス

第十一條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ

第十二條 生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷疾疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

第十三條 海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 軍醫大監

教官 軍醫監大軍醫大藥劑官

監事 大軍醫

會計主務屬

- 第十四條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第十五條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第十六條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生生徒ヲ監督ス
- 第十七條 會計主務ハ校長ノ命ヲ受ケ會計庶務ヲ掌ル
- 第十八條 海軍軍醫學校ニ屬シ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十九條 海軍軍醫學校ノ定員ハ左ノ如シ

長 軍醫大監	一	教官 軍醫監或ハ大軍醫	三	會計主務	一
	監事 大軍醫		三	屬	二

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

●海軍軍醫學校規則

明治二十三年十一月
海軍省達第三百六十八號

海軍軍醫學校規則左ノ通定ム

海軍軍醫學校規則

- 第一條 學生修學中ハ本校ノ管轄トス
- 第二條 學生ノ學期ハ毎年九月十五日ニ始リ翌年七月三十一日ニ終ル

第三條 學生ノ學科ハ日新ノ學術海軍衛生學軍陣醫學飲食ノ試驗病床實驗英學ト

第四條 學生ニハ隨時小試験ヲ行ヒ學期ノ終ニ大試験ヲ行フ

第五條 大試験及第ノ者ニハ及第證書ヲ授與ス

第六條 學用品ハ學生ノ自辨トス但授業ニ要スル書籍器械ハ其種類ニ依リ貸與スル

コトアルヘシ

第七條 休職者中本校ニ就キ修業ヲ願フ者ハ軍醫學校長ニ出願スヘシ校長ハ學生外ニ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 學生中欠員アリ之カ補充ヲ要スルトキ又ハ休職修學者中學生タル資格ヲ有スル者アルトキ校長ハ修學者ヲ選拔ス學生ヲ命セラレンコトヲ具申スルコトヲ得

第九條 學生病氣不參ノ時ハ出席定時ヨリ三十分前ニ書面ヲ以テ校長ニ届出六日以

上ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ届出可シ

第十條 私費生徒ハ海軍軍醫生徒ノ制服ヲ著スヘシ

第十一條 私費生徒ノ授業ニ要スル書籍器械ハ種類ニ依リ之ヲ貸與ス

第十二條 官費生徒ハ前期大試験ニ及第シタル私費生徒ヨリ選抜シテ之ヲ命ス辭令

書ハ左ノ如シ